

その他、土墳墓が1基（SK-104）、土坑が数基検出された。以下、主な遺構について報告する。

SK-104（第53図、図版36）

ST-4011の玄室と一部重複する、直径1.14~1.3mの不整形円形である。深さは0.49mを測るが、上部40cm程度は削平されている。

南側上面には、土師器の小皿2枚と皿1枚が重なった状態で、中央下部では小皿と皿各1枚が副葬されていた。これらは全て糸切り底で、小皿（4）は灯明皿の転用である（表7）。

SZ-11（第56図、図版39）

2区の北側を占める、長さ5.8m、幅3.4m、深さ1.2mの不整形な遺構である。

埋土は他の遺構とは異なり上層（1a~1c層）は黒~暗灰色系の土で、中層は灰~暗灰色系の土と砂が縞状に幾層にも堆積、下層は灰~褐色系の土が堆積している。

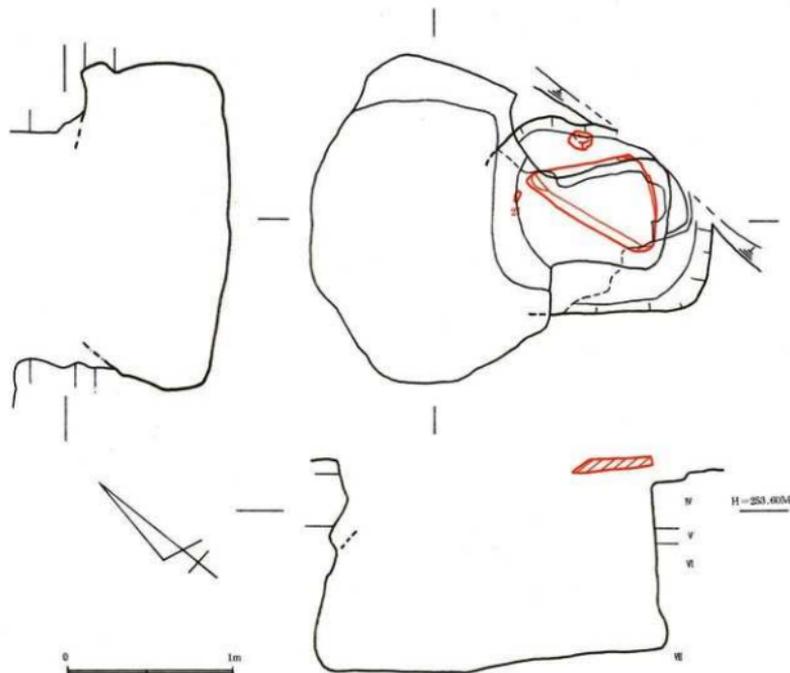
また、すべての土層が粘質で水分が多く、特に下層は顕著であることから、溜池のような機能を推定している。しかし、下底は礫層であり、大雨の後も僅かしか水が溜まらず、下層が堆積し始めるまでは機能していなかったと思われる。

埋土には古墳時代の土師器や須恵器、中世~近世の土師器（第60図-34~45）や国産陶磁器（第61図-8・9、第65図-7~11）、輸入陶磁器（第62図-9・29、第63図-40）、石器（第69図-2・7）、加工木など様々な遺物が混入していた。最も新しい遺物は18世紀後半~19世紀の碗であり、最終的埋没年代を示す。

SZ-13（第57図、図版40）

ST-4006の玄室左側まで覆う、長さ4m前後、幅2.5m前後の不整形な落ち込みである。

埋土は大きく4層に分けられる。1層は淡黒灰色系の土で、礫が多い。2層は暗灰色系の土で、礫を僅かに含



第25図 ST-3020 遺構実測図

む。3層はVI～VII層のブロックを主とする上層で、4層はIII層を起源とする黒灰色土である。以下は、安全性を考慮して未調査に終わった。2層と3層の間にはアカホヤ塊全面にみられ、地下式横穴墓の崩落天井に継がるものである。壁面をみるとVII層の下はシラスの二次堆積のような砂層で、3～4層はそれとは異なり、明らかに上位の土層である。遺物は1層に多く、3層にも若干混入しており、中世～近世の土師器（第60図・29・30）のほか国産陶磁器（第61図-7、第65図-12～14）、輸入陶磁器（第62図-14・28、第63図-37）がある。

以上の状況を総合すると、近世末、何らかの原因で直径2mほどの部分的陥没が起こり、地下式横穴墓も巻き込んだ。アカホヤ塊の隙間から黒色土や土器片なども流入した。第2層上面が旧地表面に近いと思われるが、この凹みに第1層が埋まっているのである。

よって当該落ち込みは、人為的掘り込みではなく、自然陥没坑の凹みであると断定する。

SK-108・109（図版36）

当初、調査区内ではSK-108の大部分と109の一部を検出したが、地下式横穴墓である可能性があり、北側を拡張した。

SK-108は長さ1.10m、幅0.66mの紡錘形で、北西部は2段掘り、深さは10～35cmを測る。北東部はSK-109に削られる。

SK-109は1辺1.7～1.8mの隅丸方形を呈し、深さは5～15cmの浅い土坑である。

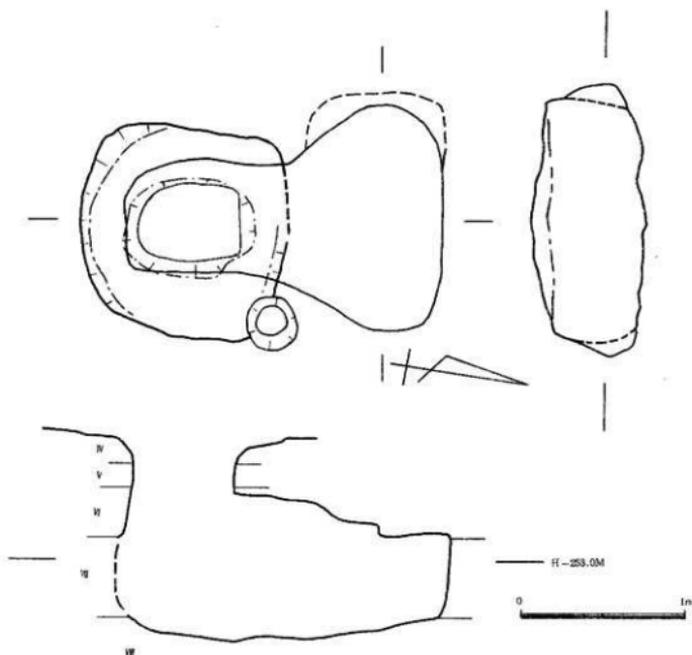
SK-108の埋土から中世の土師器片が出したが、機能は不明である。

SZ-04（図版38）

1.7～1.8m四方、深さ0.7～0.8mの土坑で、礫混じりの黒色土が埋まっている。埋土から近世の土器片や石臼片などが出土している。

SZ-09（図版38）

1辺が1.8～2.6mの不正方形で、深さ0.90mの土坑で



第26図 ST-3022 遺構実測図

ある。埋土は礫混じりの暗灰色系の土で、近世の陶磁器や砥石、銚（第72図-1）などが出土した。

その他の出土遺物

柱穴や土坑から様々な遺物が出土している。

土師器（第60図、表10）

地下式横穴墓の堅坑や崩落した天井の上の埋土から壺や長頸壺、甕、高坏が出土しており（1～3, 5, 6, 33）、墳丘祭祀に用いられた土器と思われる。

中世～近世の坏や碗、皿も多く出土している。これらは糸切り底のものが多く。中には黒書土器が1点（32）あるが、文字の判読は困難である。

須恵器（第64図、表8）

壺や甕の胴部の破片は30点余り出土しているが、口縁部や底部は少ない。

2の坏蓋は、地下式横穴墓の墳丘祭祀に伴う遺物と思われる。

中世国産陶器（第61図-2, 4, 5, 7～9, 表9）

溝状遺構やS Z-11、柱穴、遺物包含層から、主として備前焼の摺鉢が出土している。そのほとんどは、使用による摩滅が著しい。

近世国産陶器（第65-7～27, 66図-28～64, 表12・13）

16世紀末～19世紀にかけての、肥前、肥前系、唐津、薩摩、南九州産の陶磁器が豊富に出土している。

輸入陶磁器（第62図-9～18, 20～31, 63図-32～46, 表11）

60点余りの破片が出土した。白磁は1点のみ（10）で14～16世紀前半の青磁、15世紀末～17世紀前半の染付が出土している。

石器・石製品（第68・69図、表14・15）

近世の砥石のほか、擦痕のある軽石、石臼が出土している。砥石には砂岩製（粗砥～中砥）、硬砂岩製（中砥～仕上げ）、泥岩・粘板岩製（仕上げ）がある。

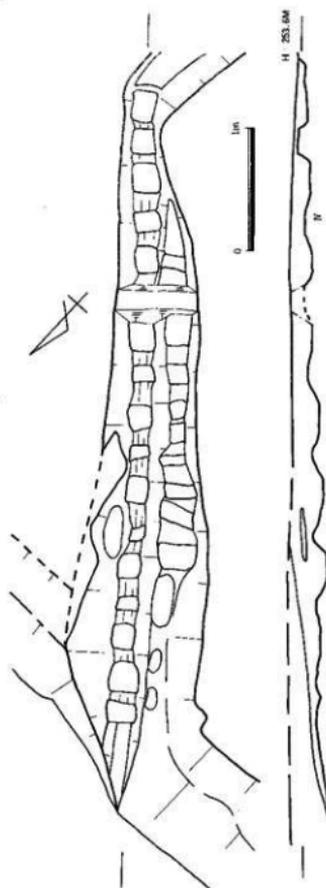
金属製品（第72図-2～6, 表16）

器種・用途が判る遺物のみ図化している。近世の土坑や柱穴からキセルや鎌が出土している。

小結

縄文～弥生時代には、調査区の南の微高地に集落が営まれていたことが推定される。

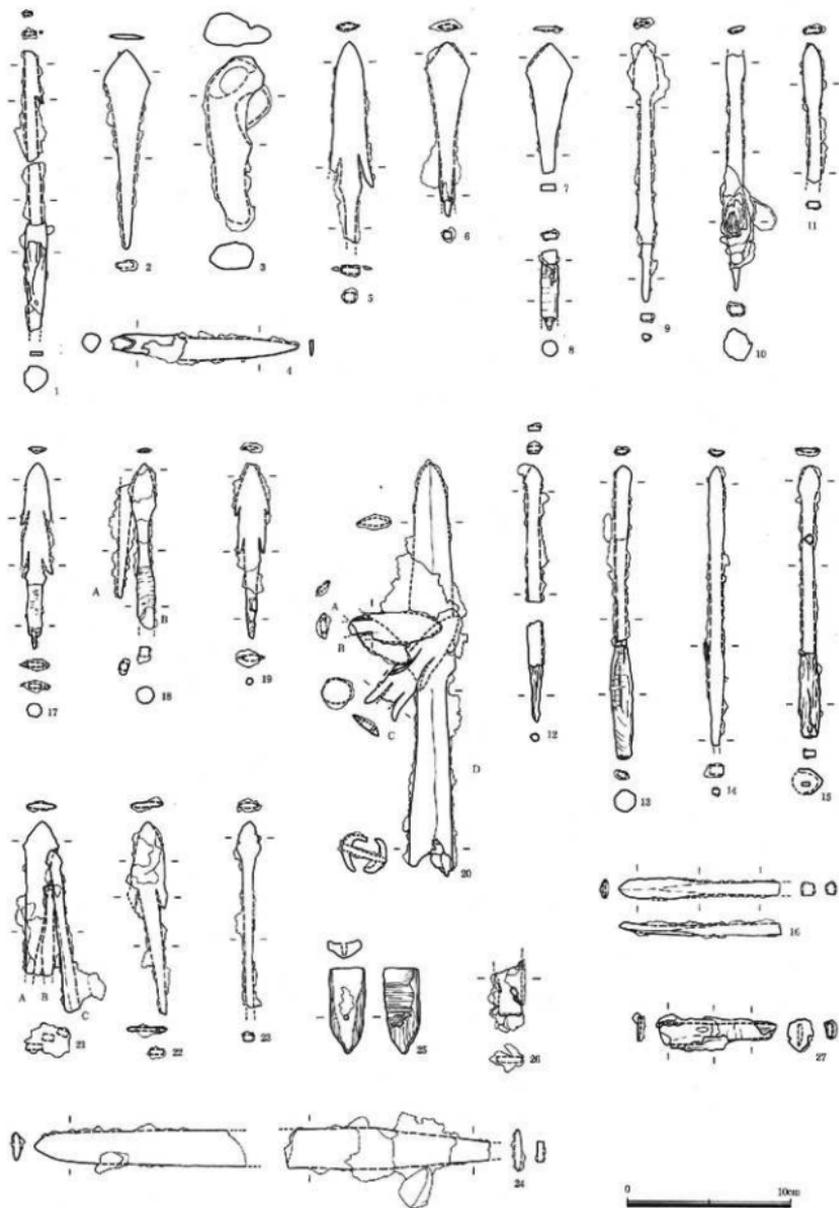
古墳時代後期には地下式横穴墓群が構築され、墓域となった。検出した遺構全てが、アカホヤ塊で澳門を閉塞する平入り両裾タイプであり、同一集団の墓であること



第27図 S D-43 遺構実測図



第28図 藤地区出土 土師器 実測図



第29图 蕨C地区 地下式横穴墓出土遗物实例图 1~4: ST-3013 5~16: ST-3014 17~20: ST-3016 21~24: ST-3018
25~26: ST-3009 27: ST-3020

が判明した。副葬品も豊富である。

墳墓群の廃絶後、7～800年の断絶を経て、集落が立地する。以後、幕末まで途切れることなく居住地となっている。

6. 地主原A地区

地下式横穴墓の分布域であることから、道路と水路の施工範囲を調査対象とした。

調査の結果、柱穴約350、土坑25、溝7、堅穴遺構1(SA-01)などを検出した。

SA-01 (第59図、図版41)

調査区の東端で検出、長さ6.4m、幅3.7～4.0mの長方形を呈し、深さは12～15cmである。柱穴は規則的ではなく、深さも一定していない。床面中央部から東側には幅0.80m、深さ0.30mの排水溝があり、屋外へは北向きに屈折する。

埋上や床面からは陶磁器やガラス瓶(第67図-81～84)などが出土し、明治～大正期の遺構といえる。

SB-01

調査区の幅が狭いために建物跡の復元が困難であるが唯一、柱穴が等間隔に並ぶ遺構である。柱間は2間×8間と思われるが、欠落する所もある。南の相は1～2回の建て替えがあり、冊列として単独で存在していた可能性もある。

出土遺物

近世～近現代の遺物が多いものの、土師器(第73図)や輸入陶磁器(第63図-47・48)、国産陶磁器(第67図)、金属製品(第74図)、石器(第75図)がある(表10・13・17)。

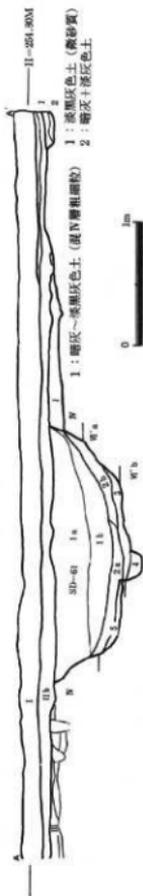
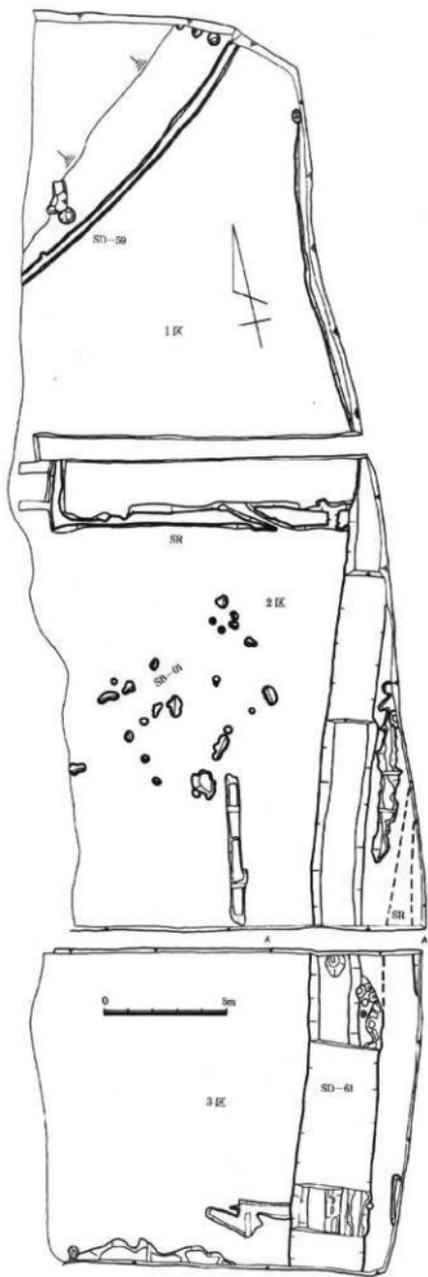
小結

当該地域は、中世後半に開拓が始まり、居住地となつて大正期まで続いた集落跡である。

現在、調査区の北に接する民家は居を構えて3代目であり、少なくとも近年50年は、当調査区は水田であったという話を聞いており、調査成果と矛盾しない。

7. 地主原B地区(図版43)

地下式横穴墓の分布域であることから表土剥ぎを実施したが、確認されなかった。念のため2本の試掘溝を設定した。Ⅲ層は60cmもの厚さがあり、その上面から掘り込む溝状遺構(SD-21)を検出した。幅は2.6m、深さは0.90mで直線的。出土遺物は無い。



第31图 SD-61层序图

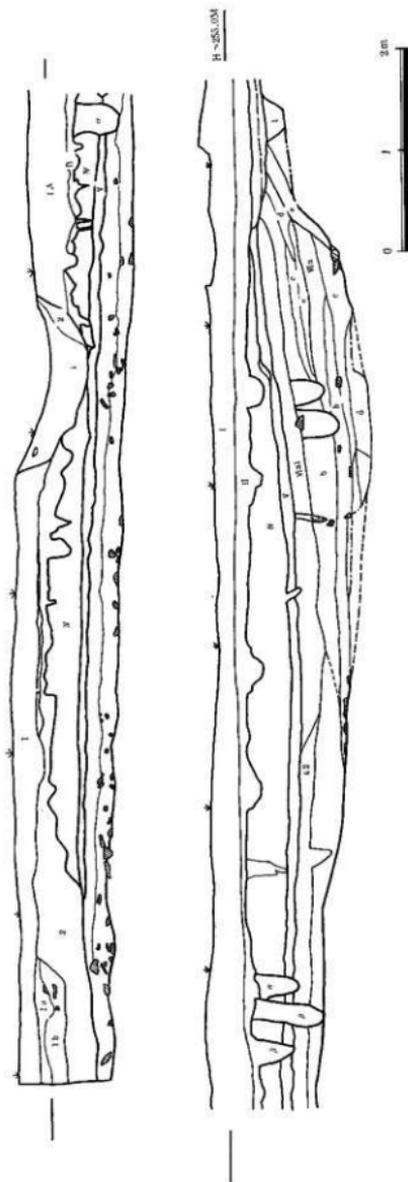
- SD61-1a: 粉灰色土
- 1b: 淡黄灰色土
- 2a: 粉灰+淡黄灰色土
- 2b: 粉灰+淡黄灰色土
- 3: 淡黄灰+暗灰色土+黄b
- 4: 淡灰+淡黄灰色土+黄b
- 5: 黄a+暗灰色土

- I: 暗灰色土
- IIa: 暗灰色土(硬V)
- IIb: 暗黄褐色微砂质土(黄厚薄层状)
- III: 暗黄褐色微砂质土(黄厚薄层状)
- IV: 北方水冲山灰
- V: 淡黄灰色土(含骨粉屑)
- VIa: 淡黄灰+淡黄色微砂质土
- VIb: 淡黄灰+淡黄色微砂质土

- 1: 淡黄灰色土(粉砂质)
- 2: 暗灰+淡灰色土



第32図 久見泊B地区 遺構分布図



- IA: 暗灰色土
 IB: 暗灰色土 (粗細砂土)
 II: 灰 - 暗灰色土
 III: アカギや火川灰
 IV: 燐茶灰 - 茶褐色土
 V: 暗灰色土
 VI: 暗灰色土
 a: 暗灰色土
 b: 暗灰色土
 c: 暗灰色土 (粘質)

- Ia: 灰 - 淡黄灰色土 (燐質 - 質薄ゾロツク - 粗粒少量)
 Ib: 暗灰色土 (燐質層部少量)
 2: 暗灰色土 (燐質層部少量)

- VII: 暗区 - 暗色土 (粘質)
 Wa: 暗区 - 暗灰色土 (粘質)
 Wb: 暗区 + 暗灰色土 (粘質)
 b: 燐茶灰 - 暗灰色土 (粘質)
 c: 暗区 - 暗灰色土 (粘質)
 d: 暗灰色土 (暗灰色粘質砂)
 e: 暗区 - 淡黄色粗粒砂 - 砂質土
 暗: 砂粘砂

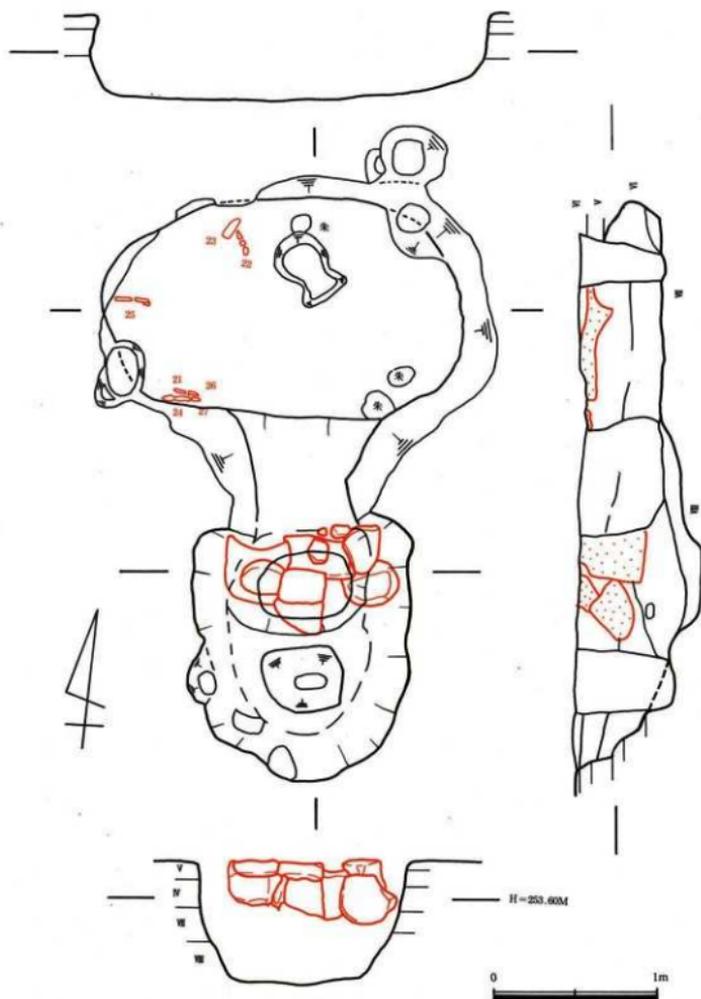
- 1: 暗区 I 暗灰色土
 2: 暗区土 I 暗区暗色粘質砂

- a: 淡黄灰色土 (燐質層ゾロツク - 粗粒少量)
 b: 暗灰色土 (燐質層ゾロツク - 粗粒少量)

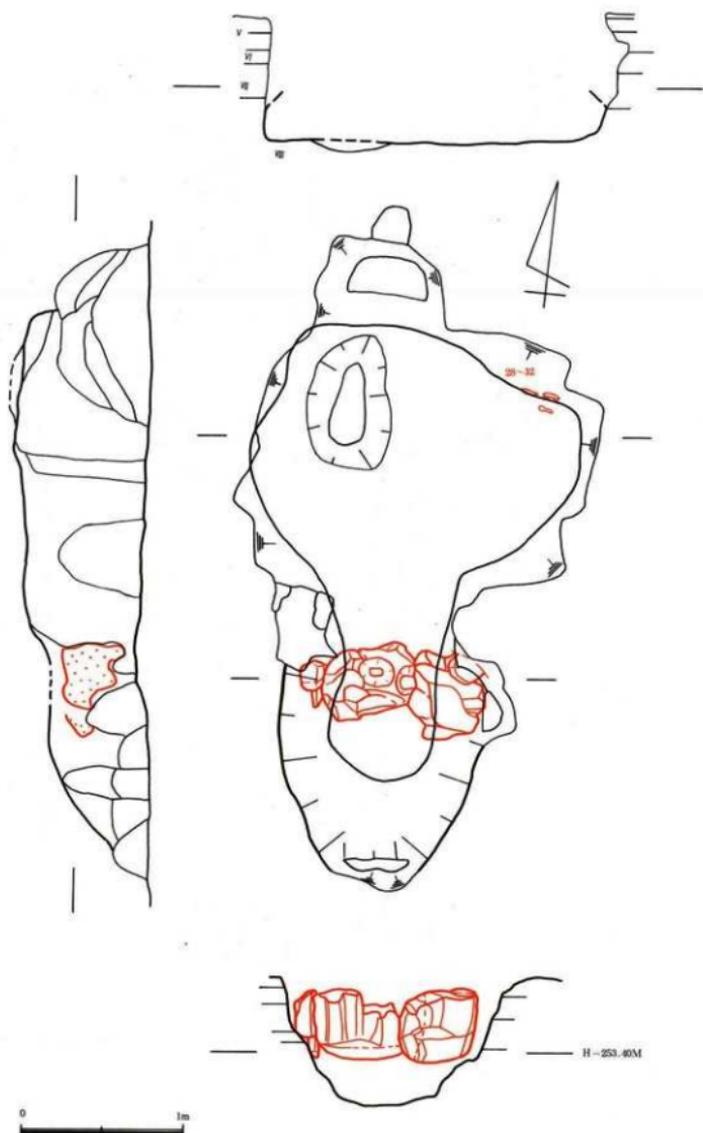
第33図 久見池B-4区 南壁層序図



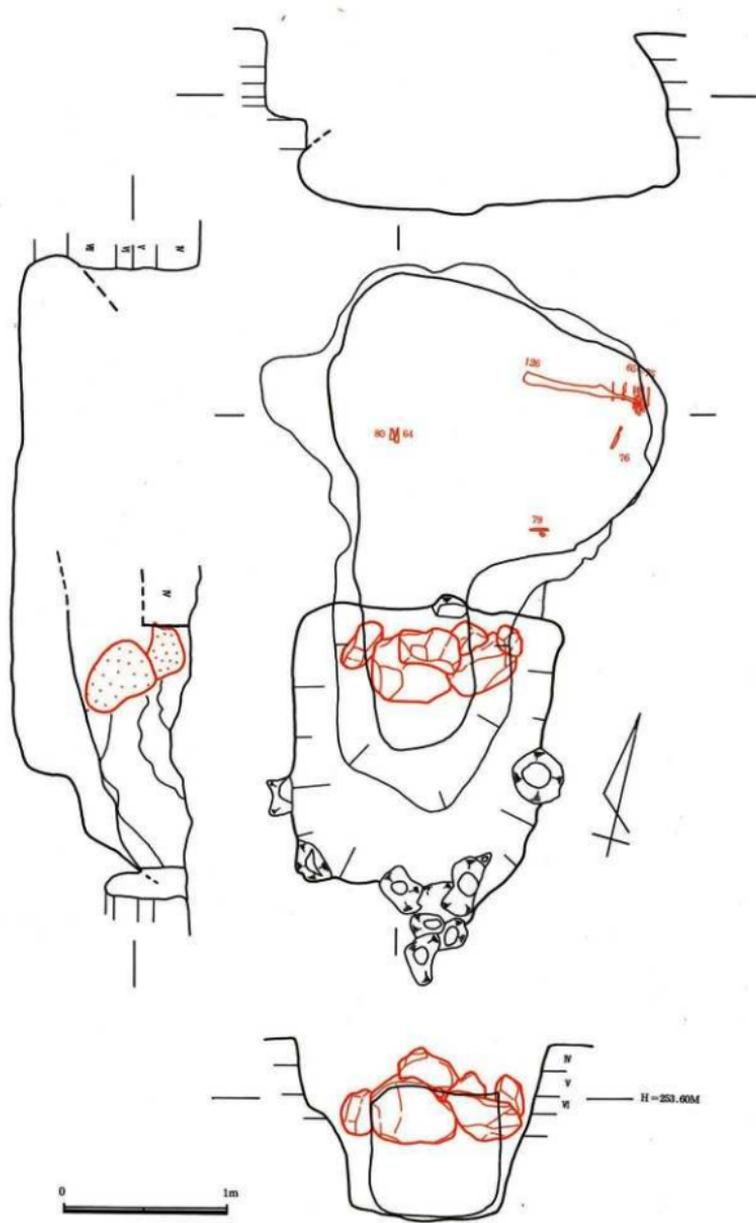
第34圖 ST-4001 遺構実測図



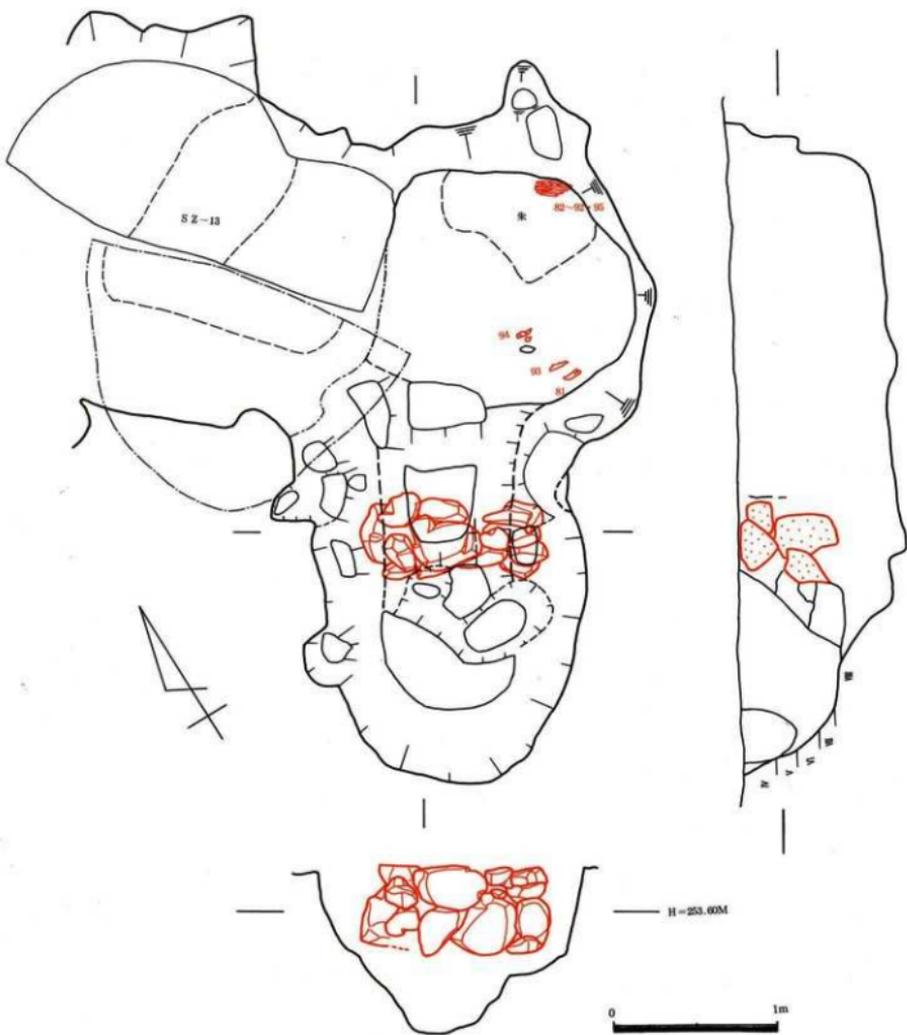
第35図 ST-4002 遺構実測図



第36图 S T - 4003 遺構実測図



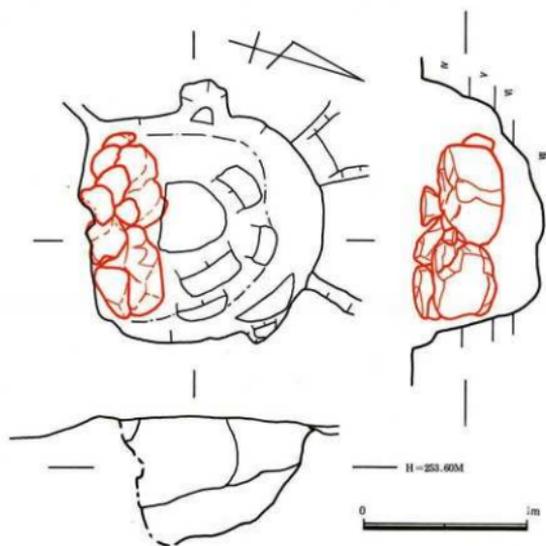
第38図 ST-4005 遺構実測図



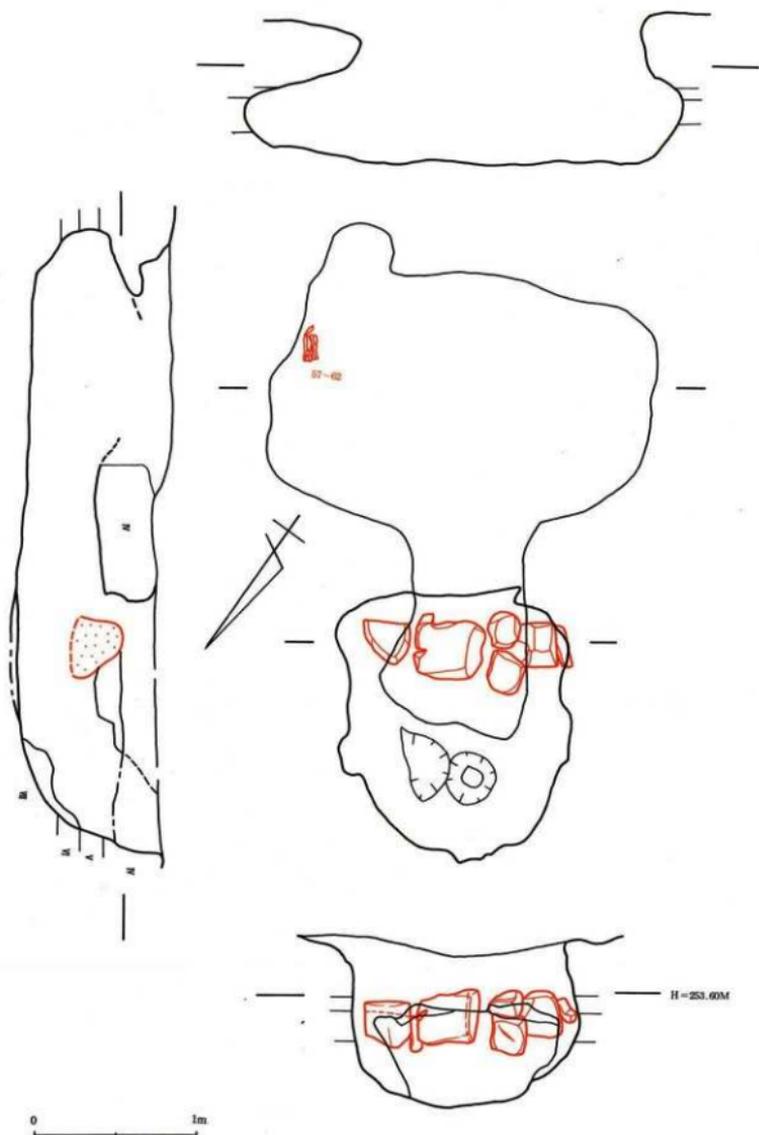
第39图 ST-4006 遺構実測図



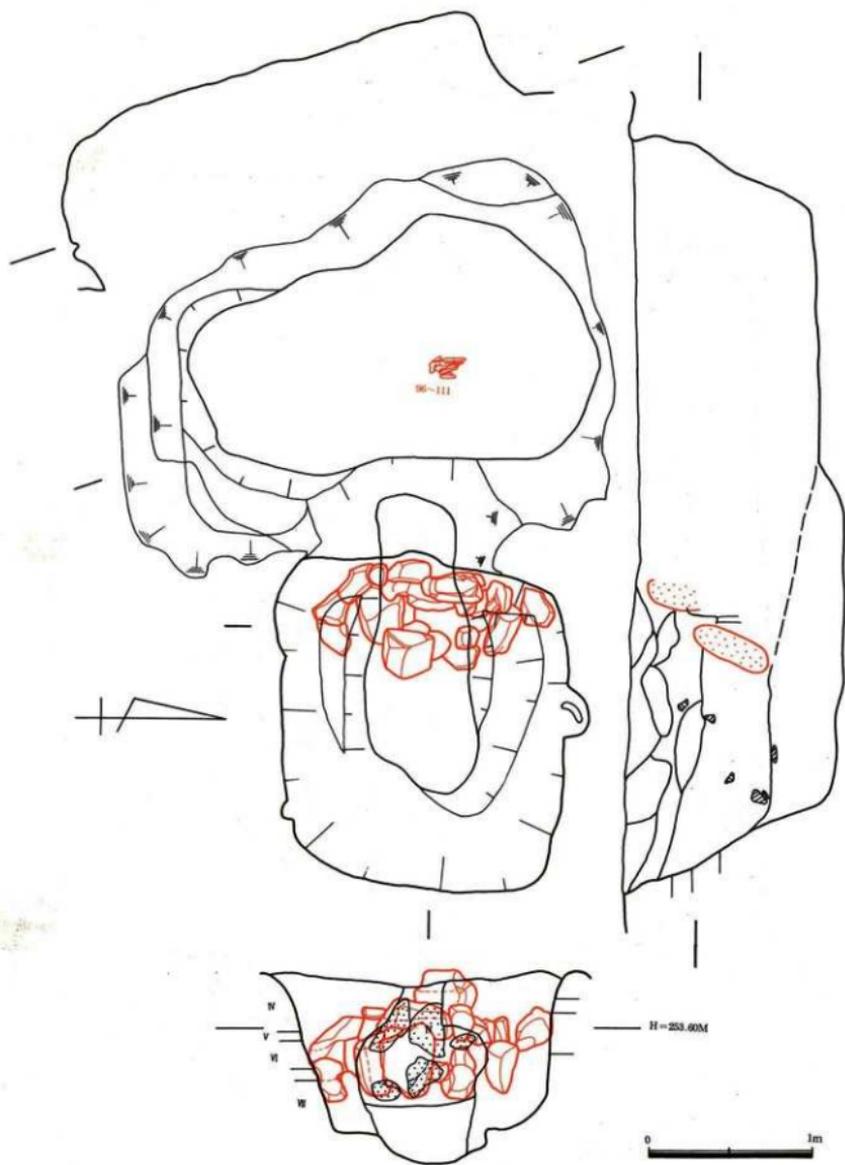
久見泊B地区 調査風景



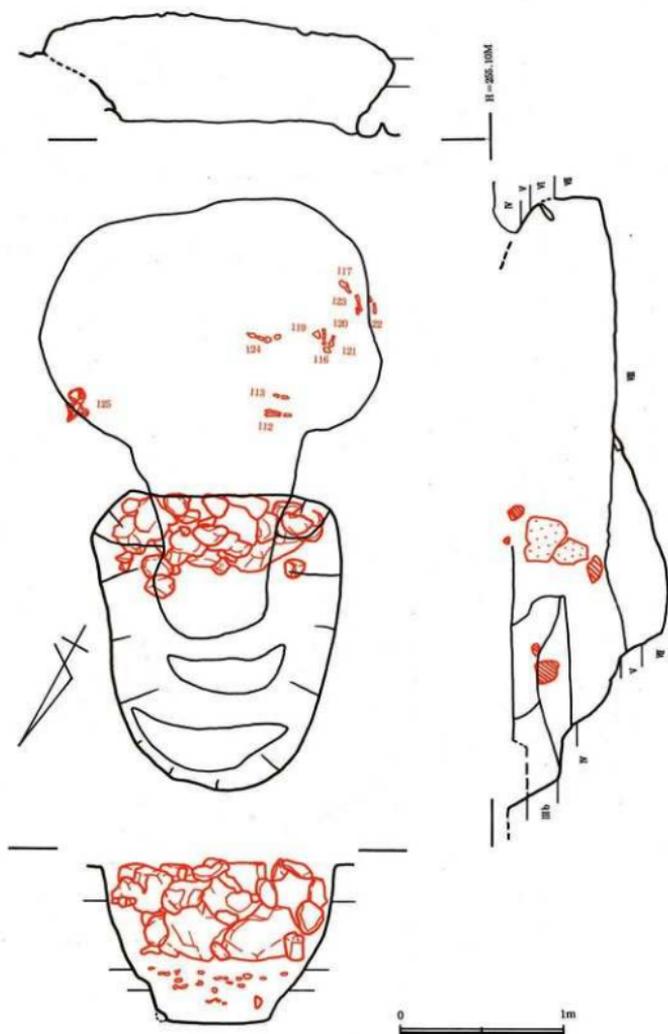
第40図 ST-4007 遺構実測図



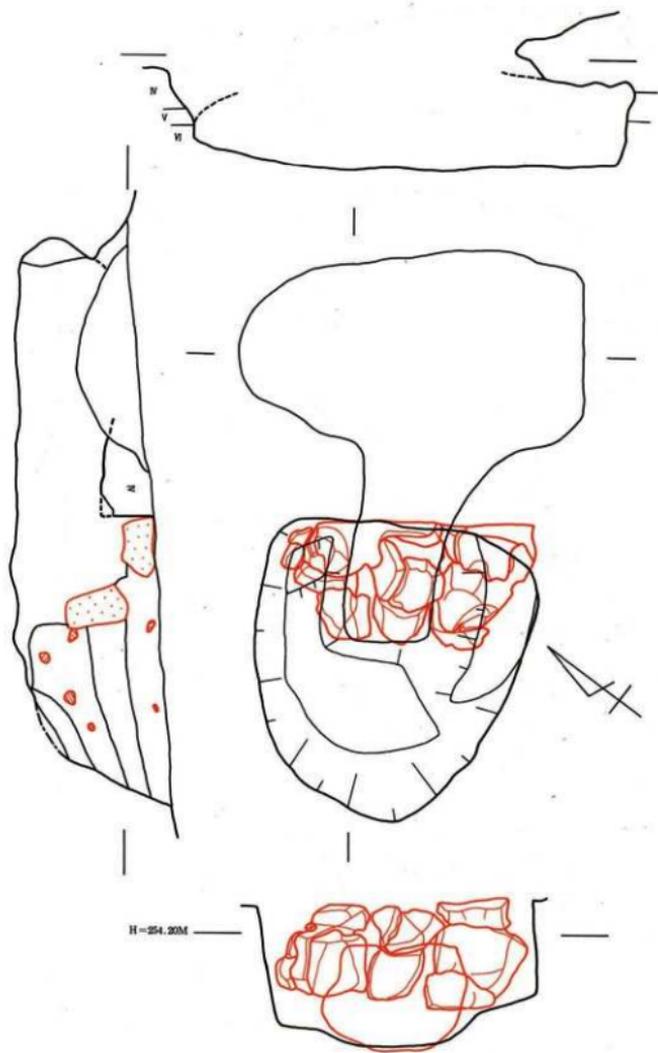
第41図 ST-4008 遺構実測図



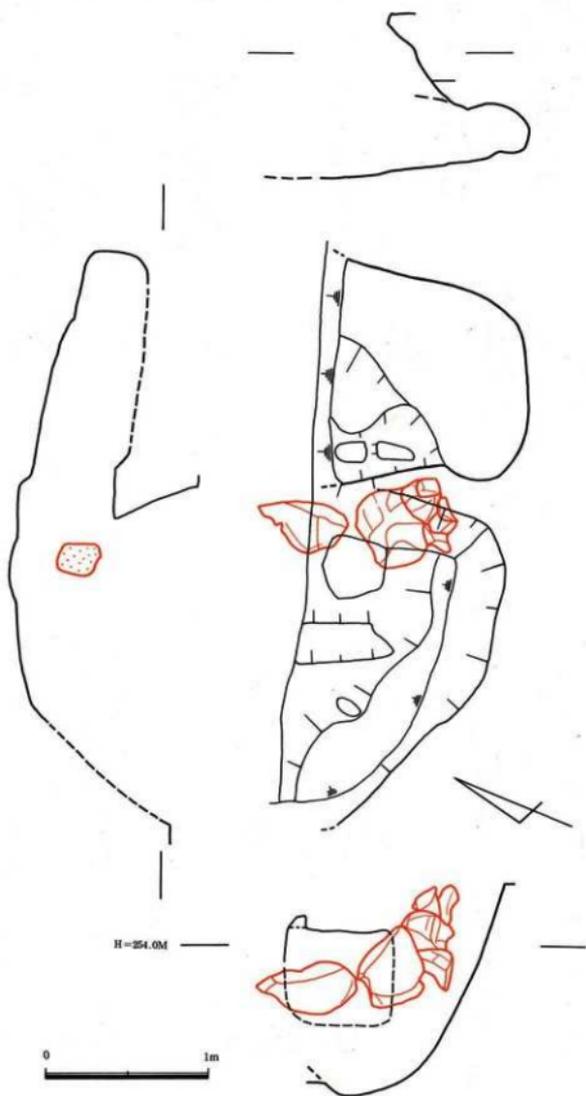
第42図 ST-4009 遺構実測図



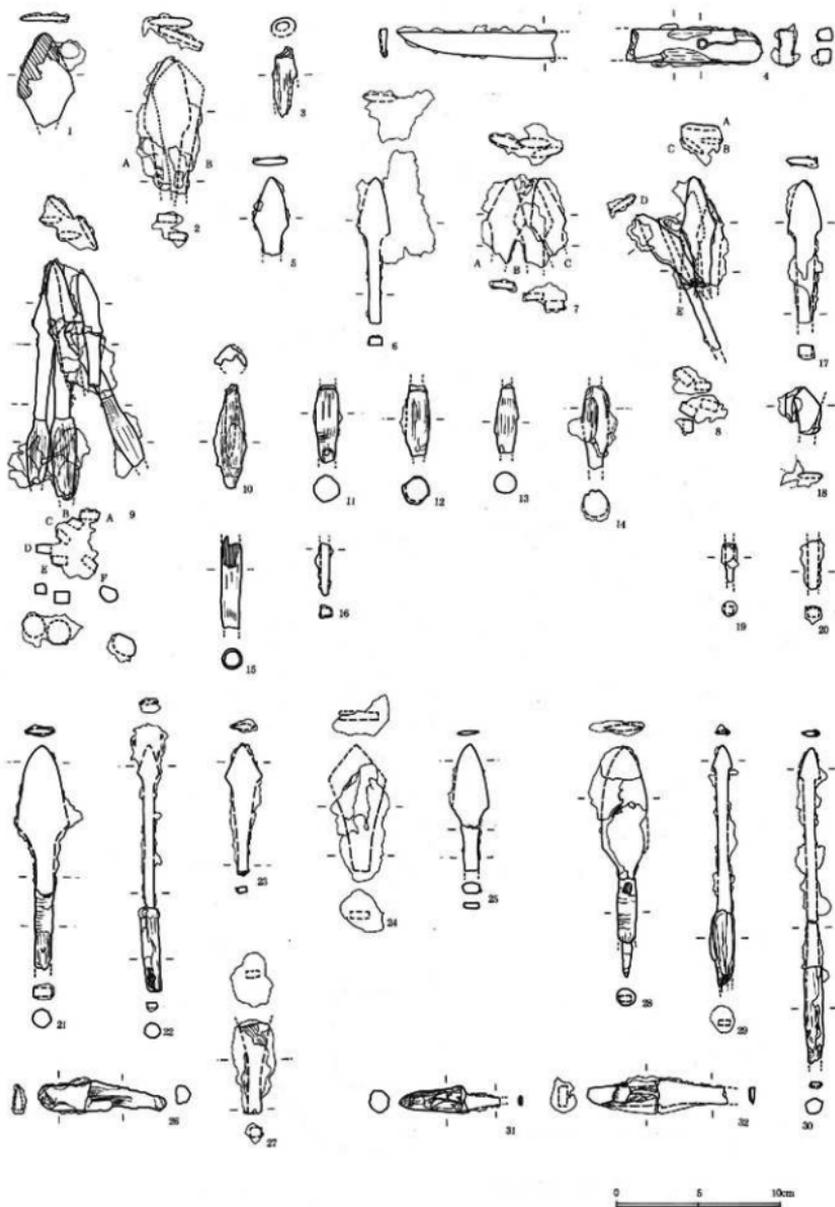
第43图 ST-4011 遺構実測図



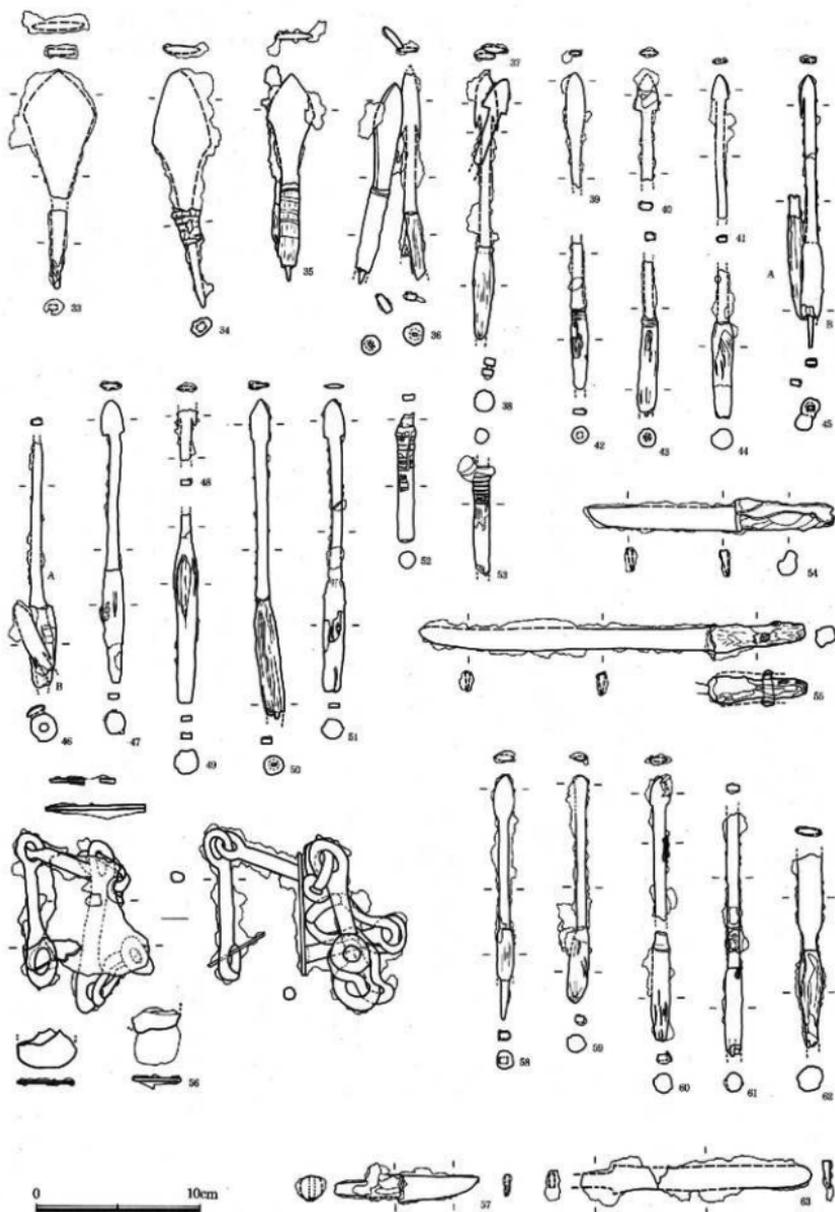
第44图 ST-4012 遺構実測図



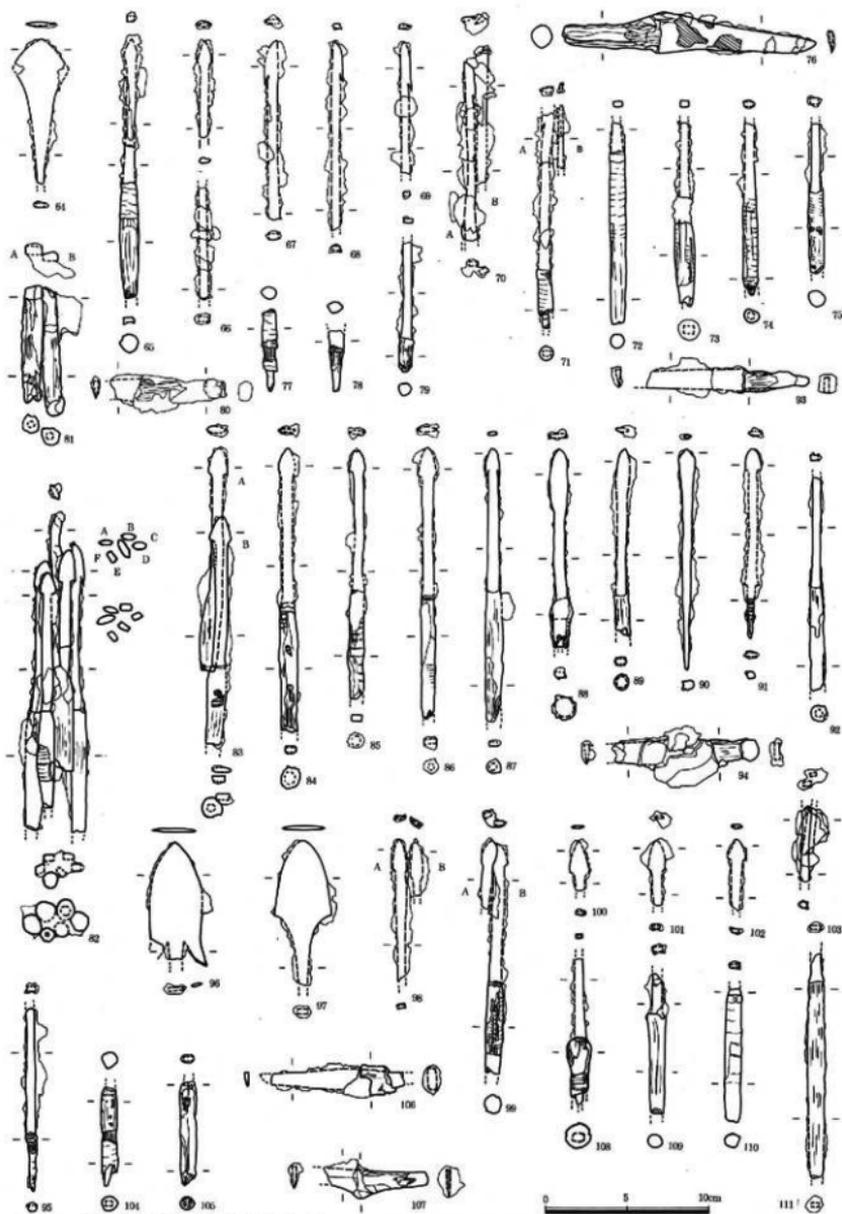
第45圖 ST-4013 遺構実測図



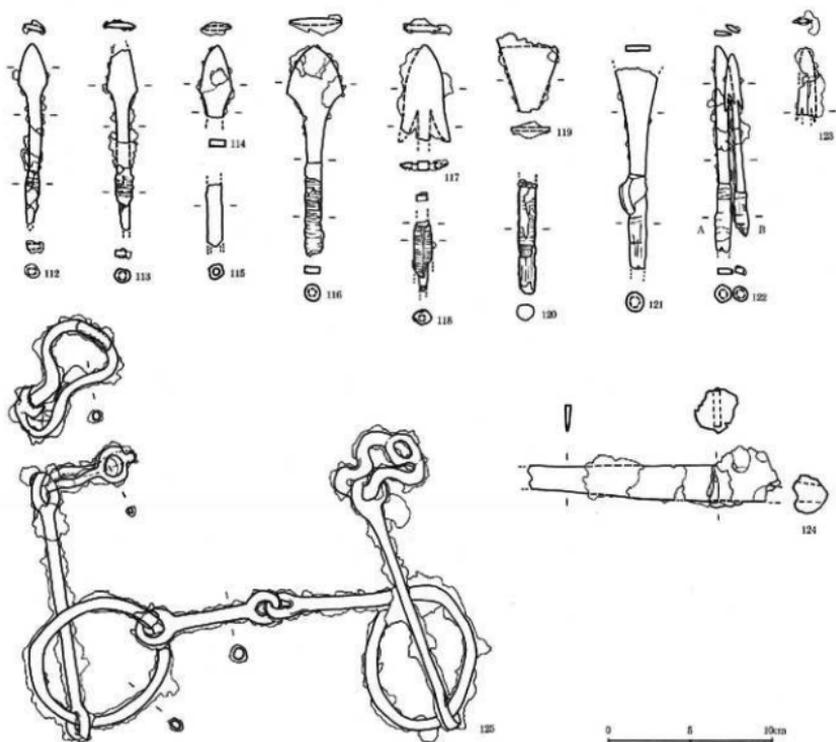
第46圖 地下式横穴墓出土遺物実測図(1) 1~20: ST-4001 21~27: ST-4002 28~32: ST-4003



第47图 地下式横穴墓出土遺物実測図(2) 33~56: ST-4004 57~62: ST-4008 63: ST-4010



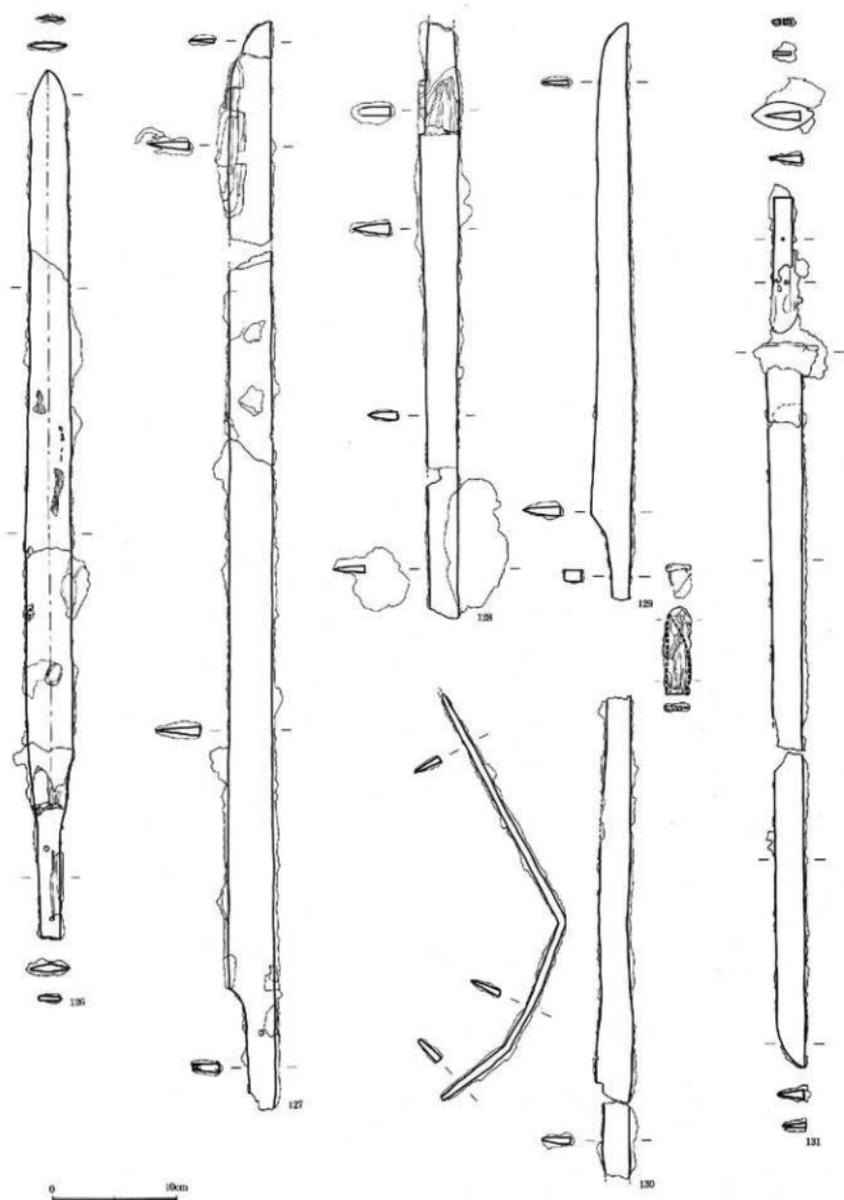
第48图 地下式横穴墓出土物实测图(3) 64~80:ST-4005 81~95:ST-4006 96~111:ST-4009



第49图 地下式横穴墓出土物实测图(4)

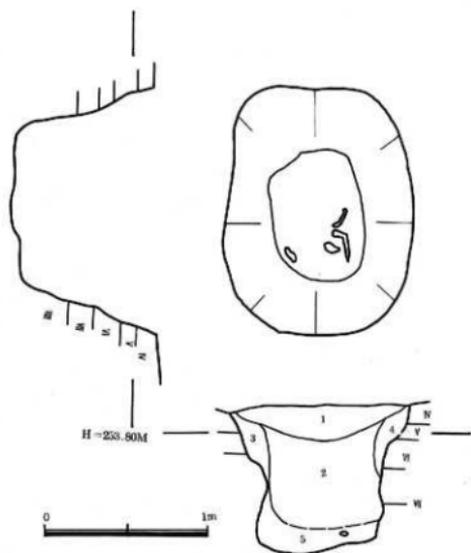
112~125: ST-4011

0 5 10cm



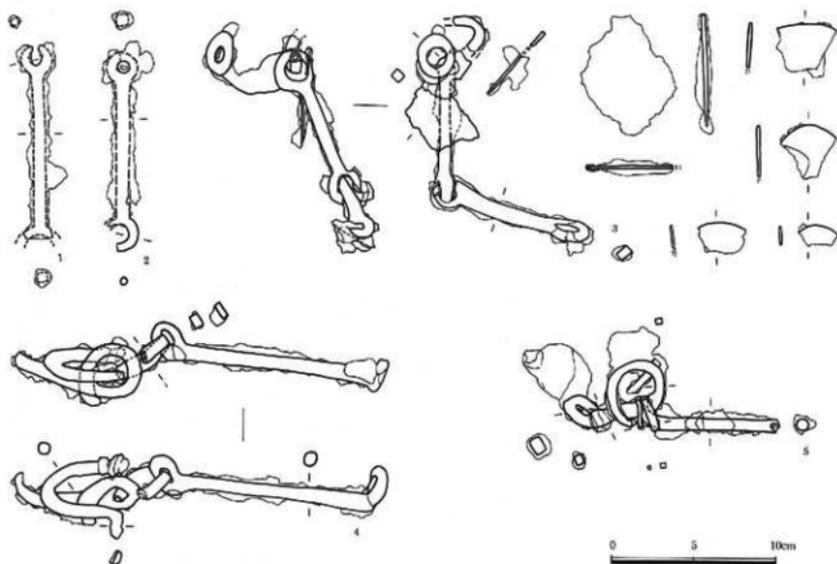
第50图 地下式横穴墓出土 刀剣実測图

126 : ST-4006 127 : ST-4001 128 : ST-4004 129・131 : ST-3014 130 : ST-3016

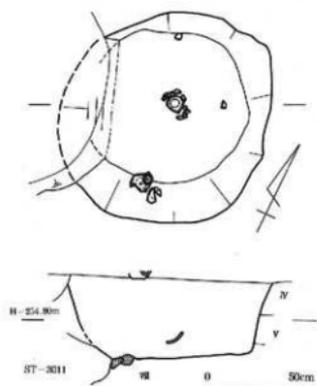


- 1: 暗灰～深黒灰色土
- 2: 暗灰+淡黒灰色 (表IV・V層ブロック・産物少量)
- 3: VI層粗砂粒+2層
- 4: 2層+VI～VII層粗砂粒
- 5: 淡黒灰色土 (表IV層粗砂粒)

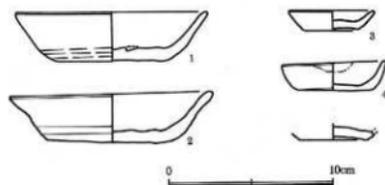
第51図 SK-110 遺物実測図



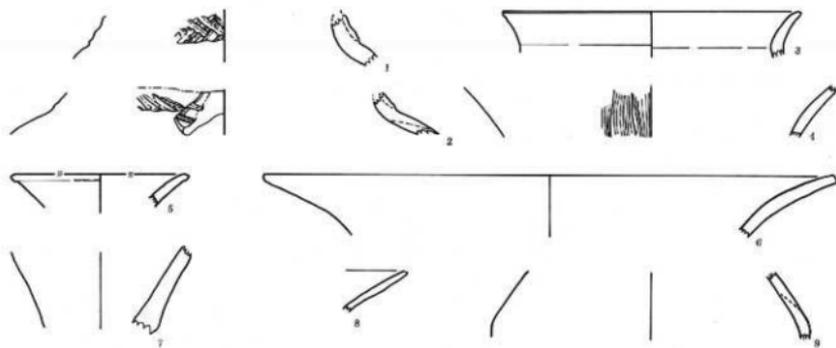
第52図 SK 107・110 出土遺物実測図



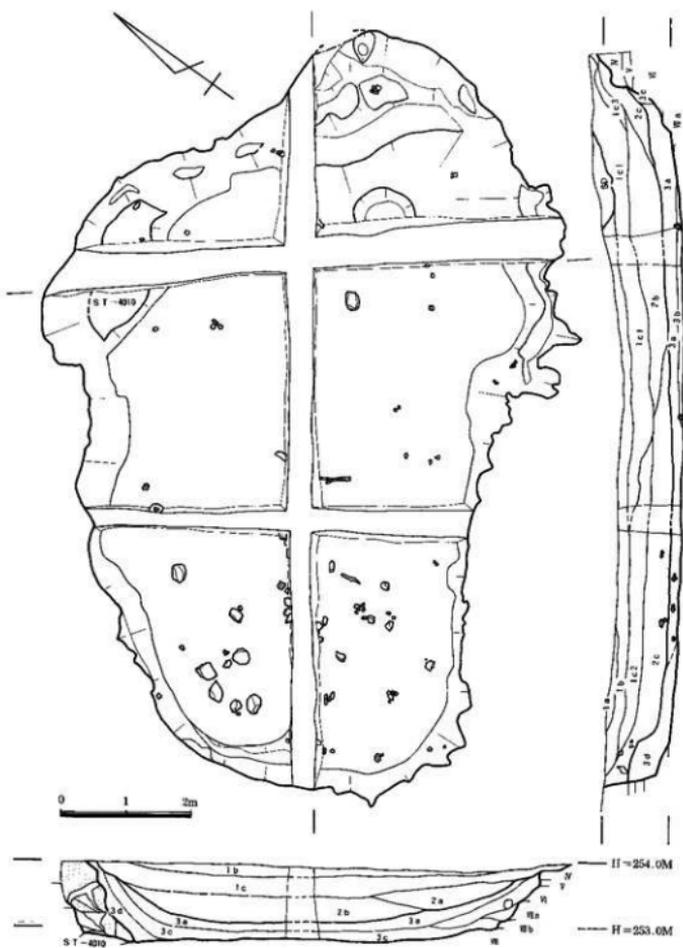
第53图 SK-104 遺構実測図



第54图 SK-104 出土遺物実測図



第55图 ST-4011 西側土器群実測図



ST-4010

1 a : 暗茶灰+淡黄灰色粘質微砂

b : VI b | 1 a

c : 暗茶灰色粘質微砂

IV : アカホヤ火山灰

V : 暗茶褐色+黒灰色土

VI'a : 黒褐色土+糠

b : 淡黄褐色~茶褐色粗粒砂 (硬い)

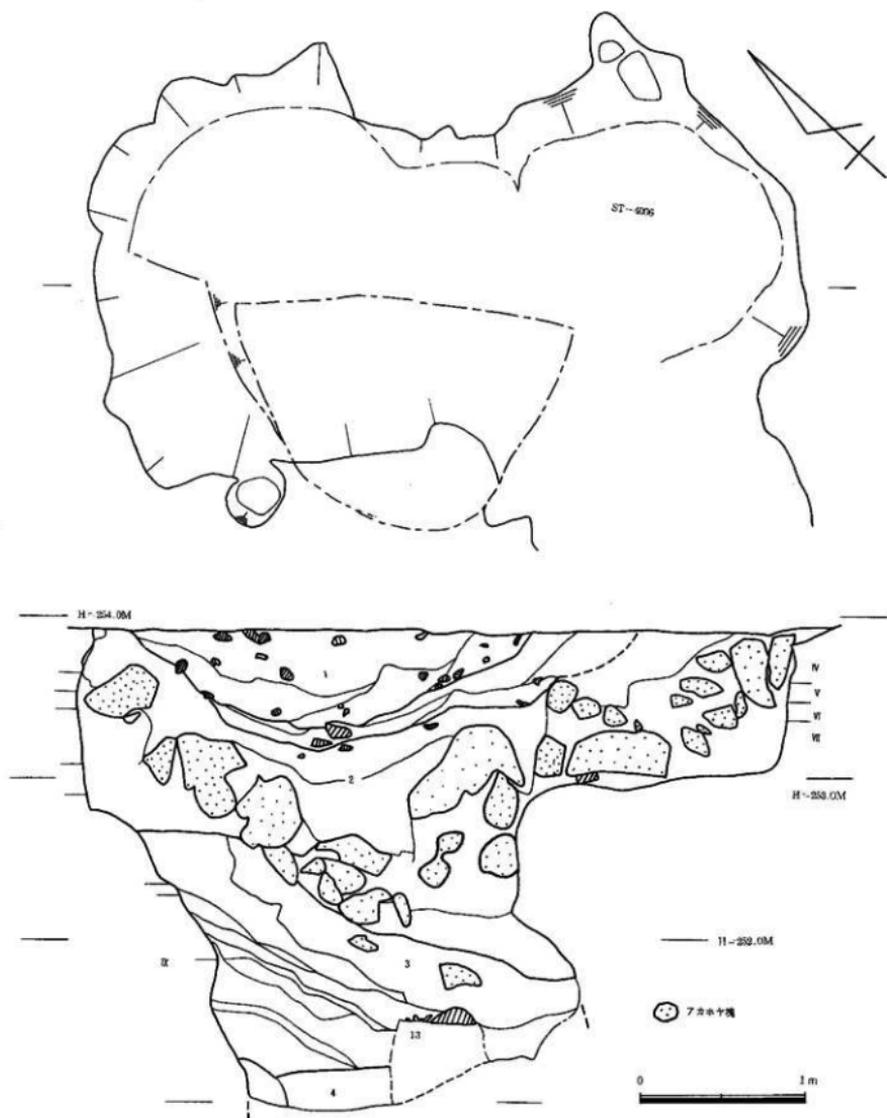
c : 黄褐色砂質土 (硬い)

VI' : 糠+VI' c

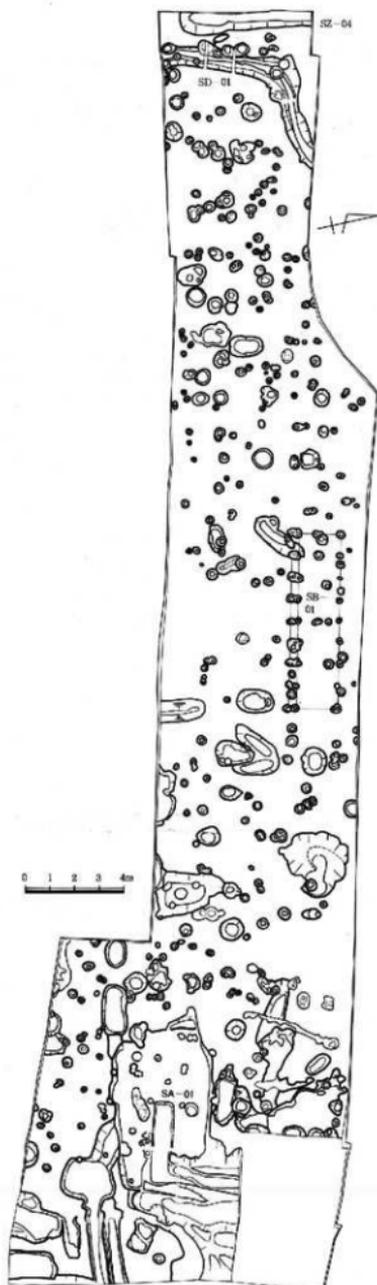
3 a : 暗褐色+灰色土 (粘質)
 b1 : 淡褐色+暗灰色土 (黒V層ブロック)
 b2 : 淡褐色+暗灰色土 | 淡黄白~淡褐色粘質微細砂
 c : 暗褐色~黒褐色土
 d : 灰~暗灰色土 (黒IV層粗粒)

1 A : 淡褐色+暗灰色土
 B : 灰色粘質微砂質
 C : 灰色粘質微砂
 c 1 : 灰~暗灰色粘質土 (粘質)
 c 2 : 灰~暗灰色粘質土 (粘質)
 c 3 : 灰+暗灰色土 (粘質、硬い) (淡褐色微砂の塊状に入る)
 2 a : 淡灰~暗灰色土 (粘質、硬い) (淡褐色微砂+IV層粗粒砂が塊状に入る)
 b : 灰色粘質土 (粘質)
 c : 暗灰色土 (混細砂、やや粘質、黄質)

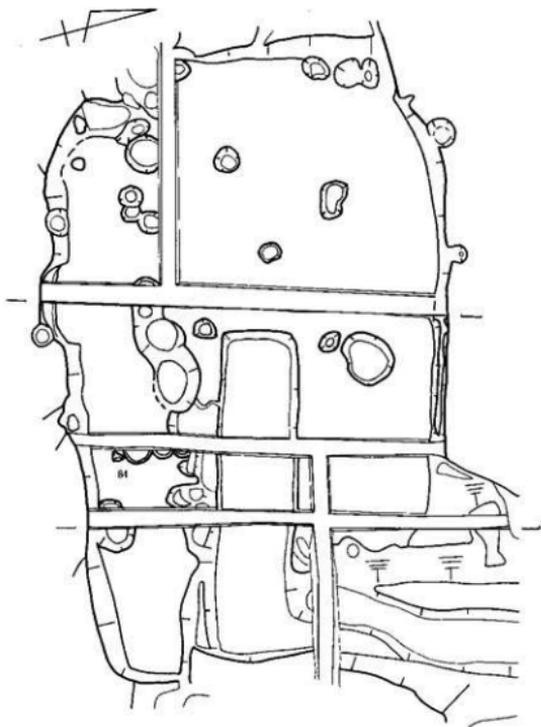
第56図 S Z-11 遺構実測図



第57図 SZ-13 遺構実測図

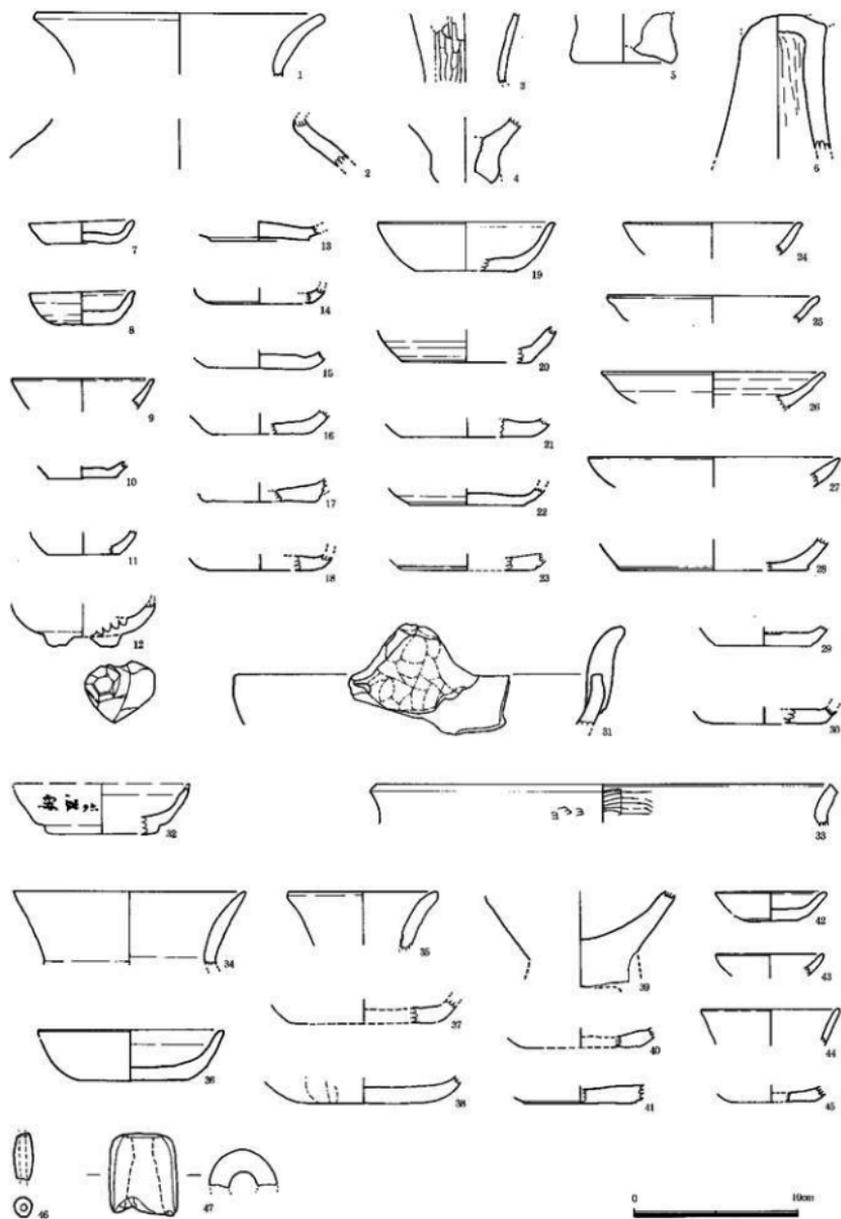


第58图 地主原 A 地区 遗构分布图

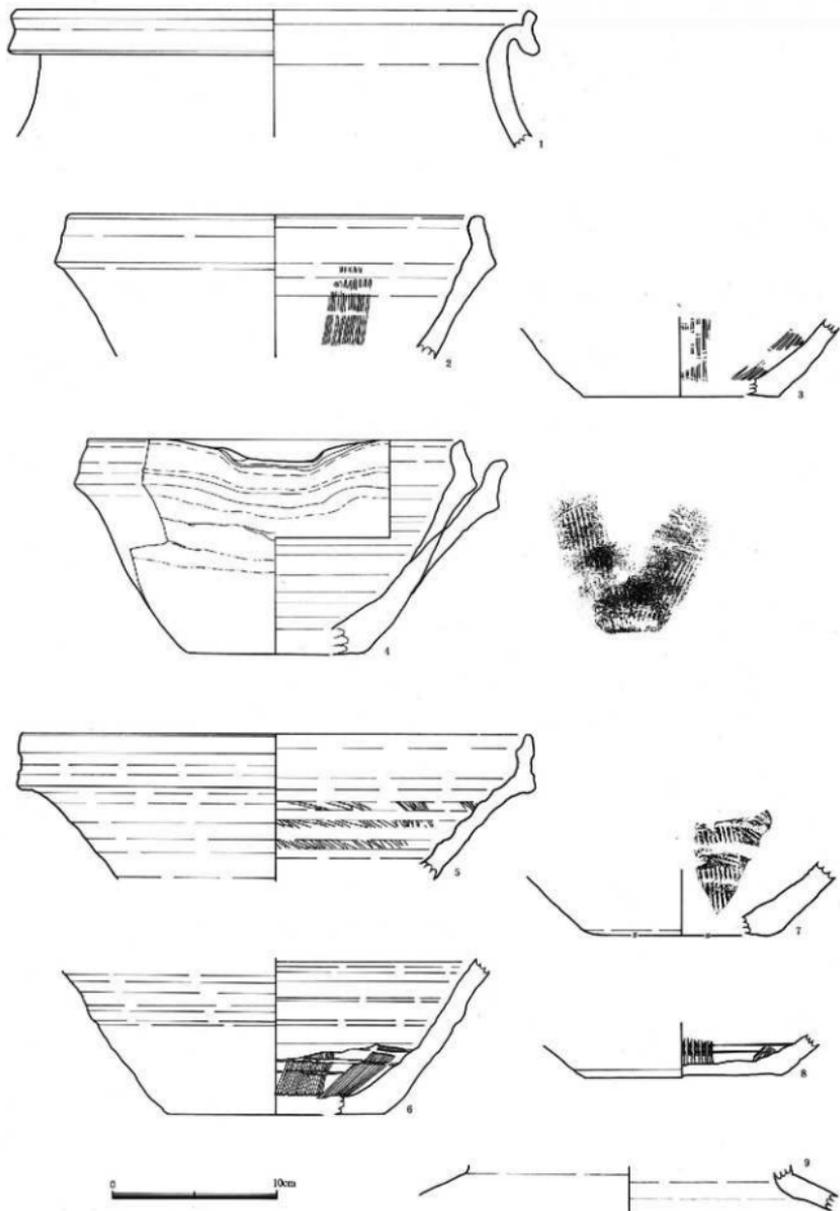


- 1: 暗灰+淡黒灰色土(混Vブロック多量)
- 2: 灰色塵砂質土(粘質、混V層ブロック少量)
- 3a: 淡灰色塵砂質土(粘質)+淡黒灰色土(混V層ブロック+粗粒少量)
- b: 淡灰白色塵砂(粘質) 13a層
- c: 3a層と同じ
- 4a: 暗灰+淡黒灰色土(混V層ブロック多量)
- b: 暗灰~暗灰褐色塵砂質土(粘質): 淡黒灰色土(混V層粗細粒多量)
- c: 暗灰褐色+淡黒灰色土(混V層粗粒少量)
- 5: 淡黒灰色土(混V層細粒+V層ブロック)
- 7~9: 掘乱層

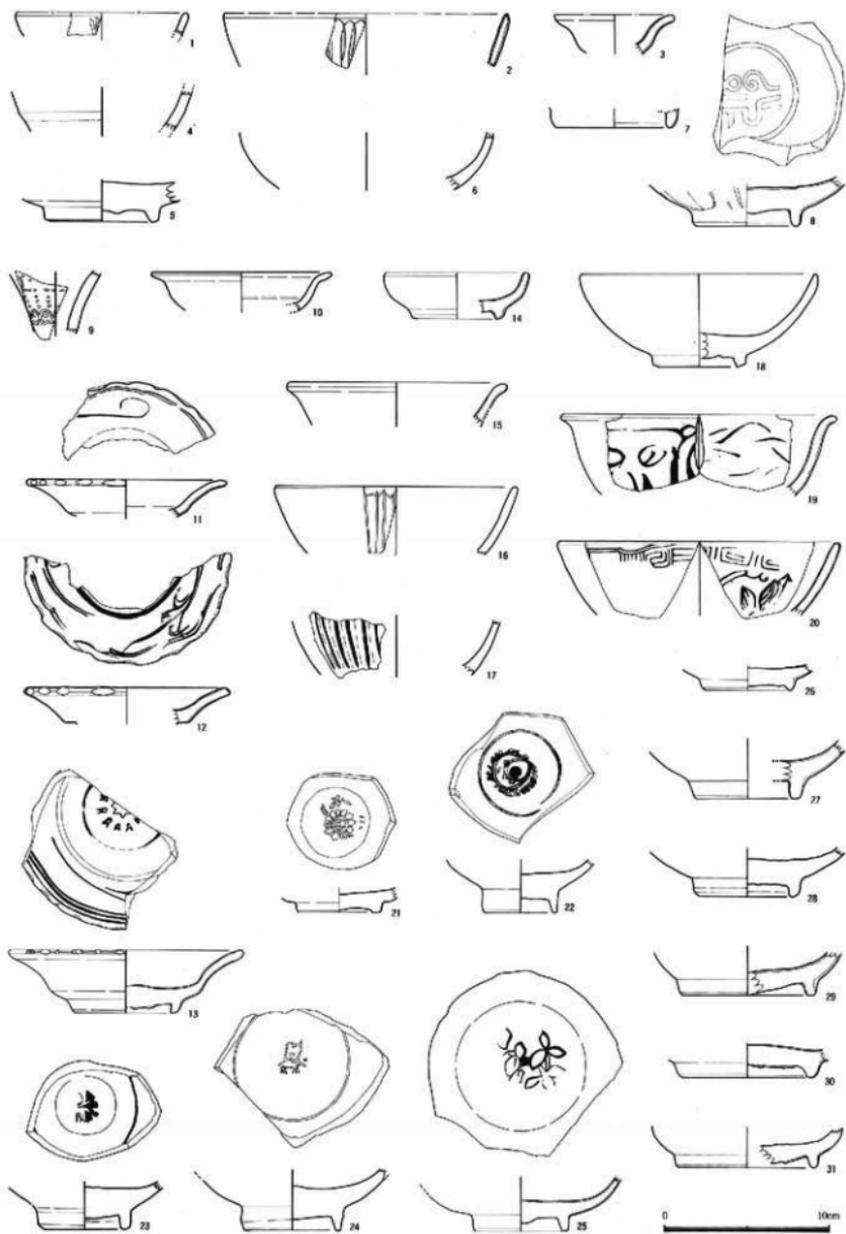
第59図 SA-01 遺構実測図



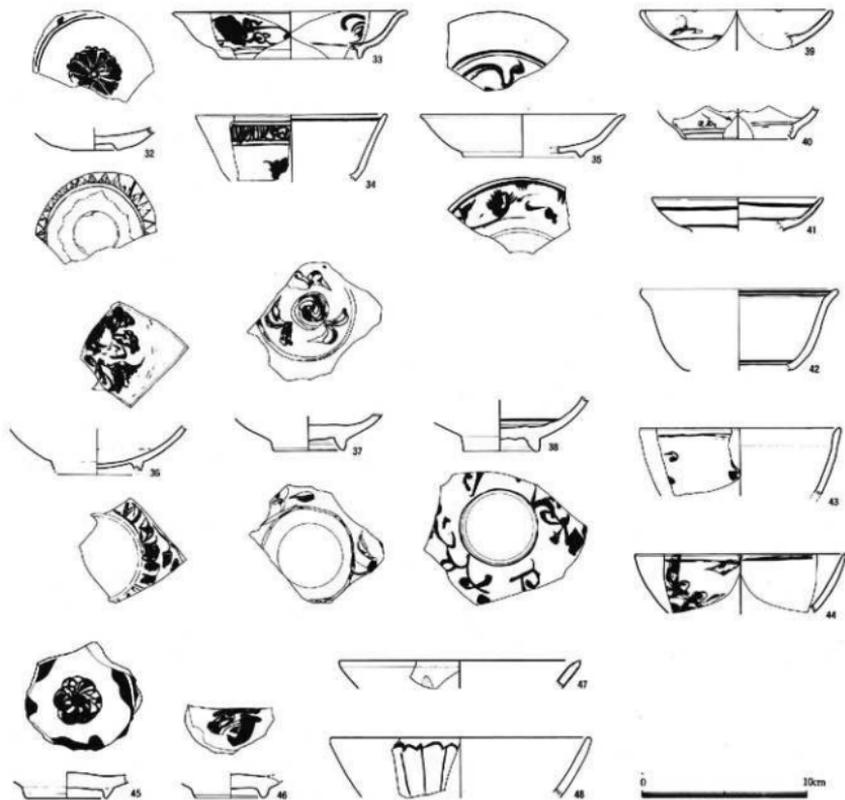
第60图 久見泊B地区出土 土器・土製品 実測图



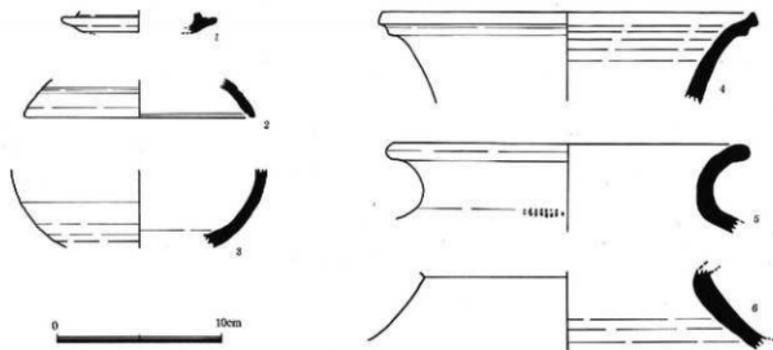
第61图 調査区出土 中世国産陶器実測図



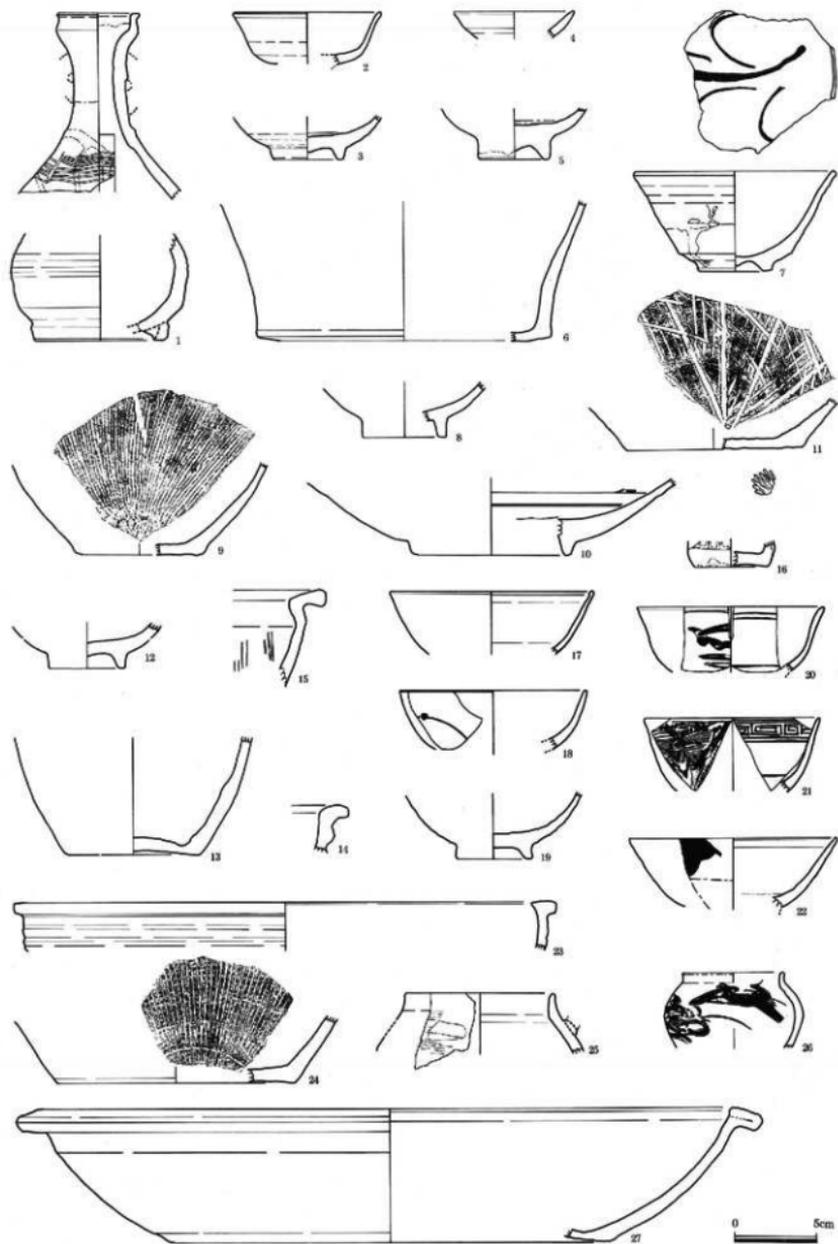
第62図 調査区出土 輸入陶磁器実測図(1)



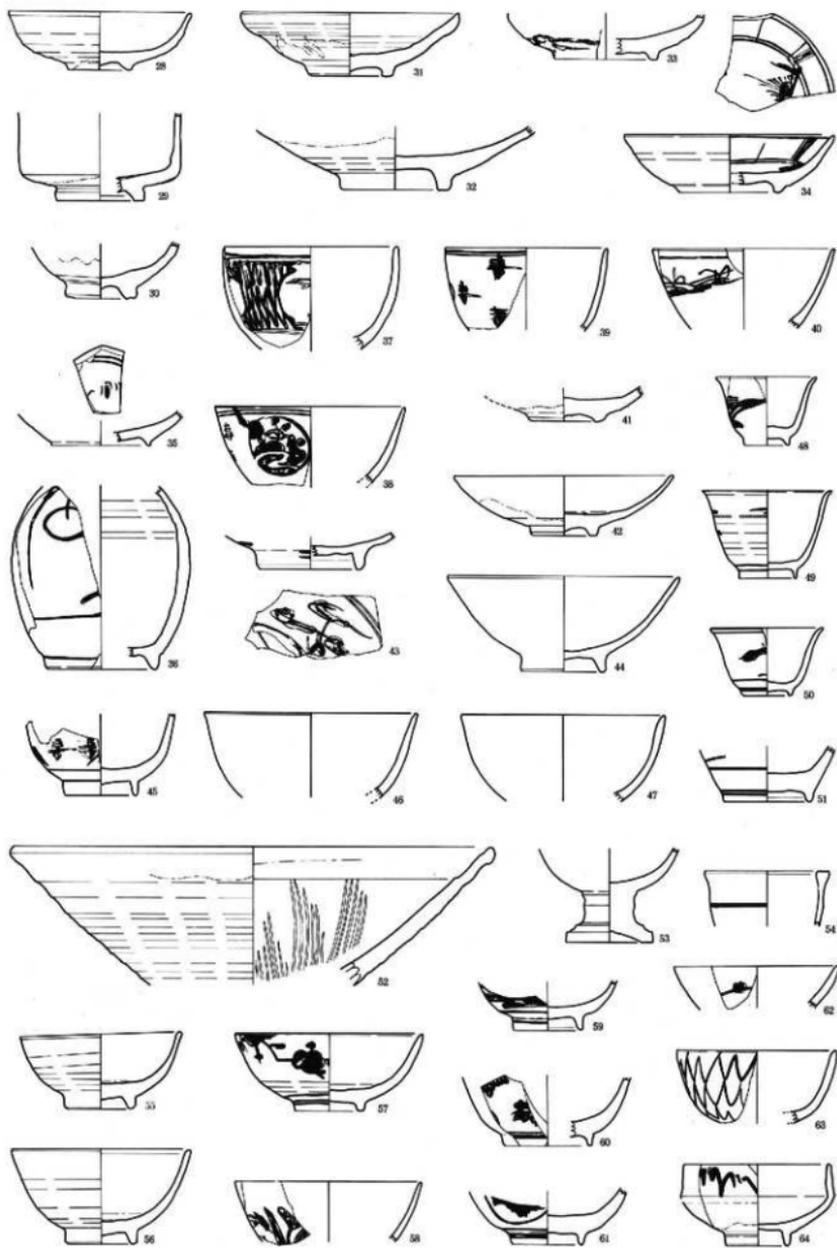
第63图 調査区出土 輸入陶磁器実測図(2)



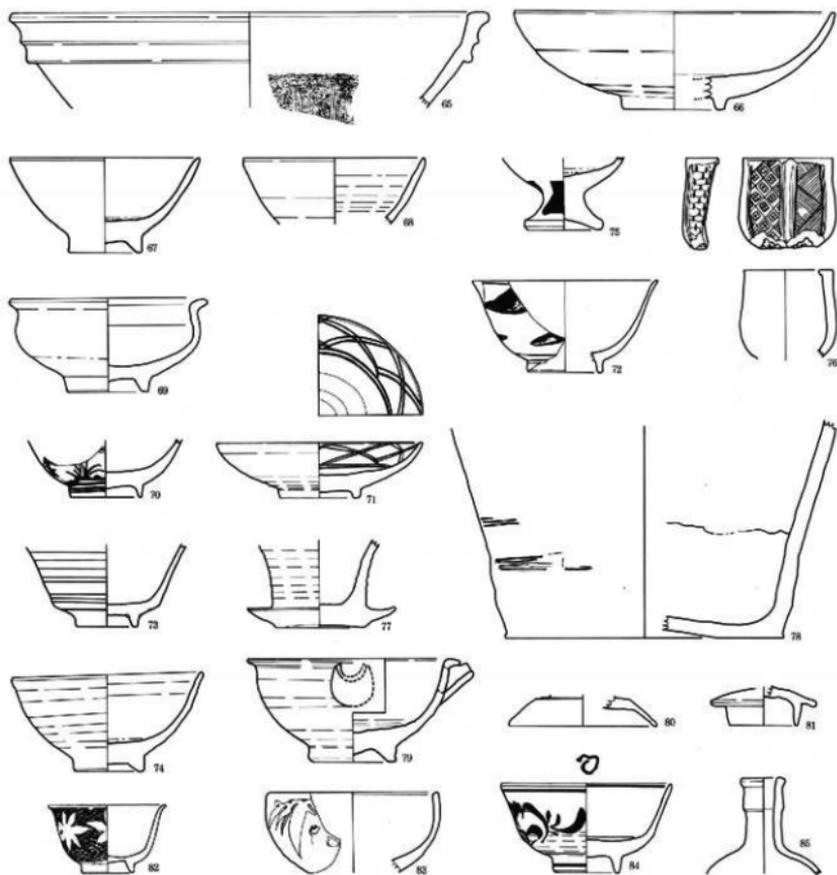
第64图 調査区出土 須惠器実測図



第65图 調査区出土 国産陶磁器 実測図(1)



第66图 調査区出土 国産陶磁器 実測図(2)



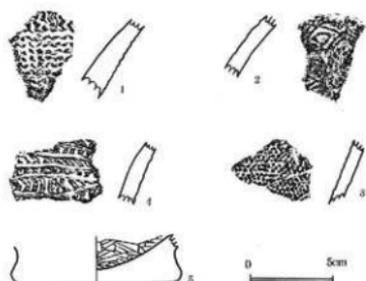
第67図 調査区出土 国産陶磁器 実測図(3) 85はガラス板



第68図 試掘溝K1・久見泊B地区出土 砥石 実測図



第69圖 久見泊B地区出土 軽石加工品、石臼 実測図



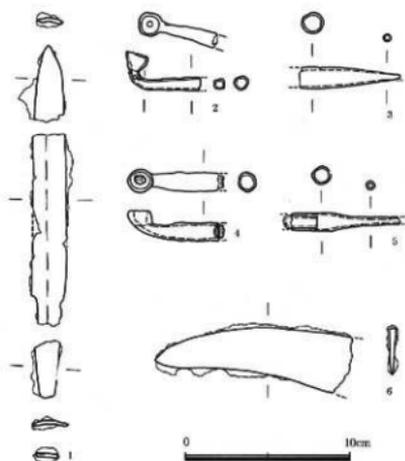
第70図 久見泊B地区出土 縄文土器 実測図



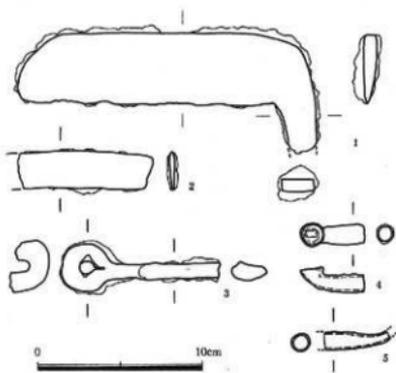
第71図 久見泊B地区出土 弥生土器 実測図



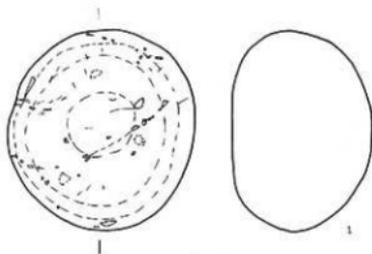
第73図 地主原A地区出土 土師器 実測図



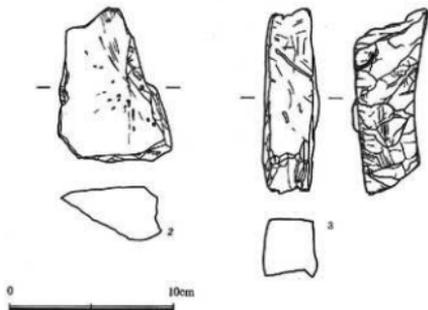
第72図 久見泊B地区出土 金属製品 実測図

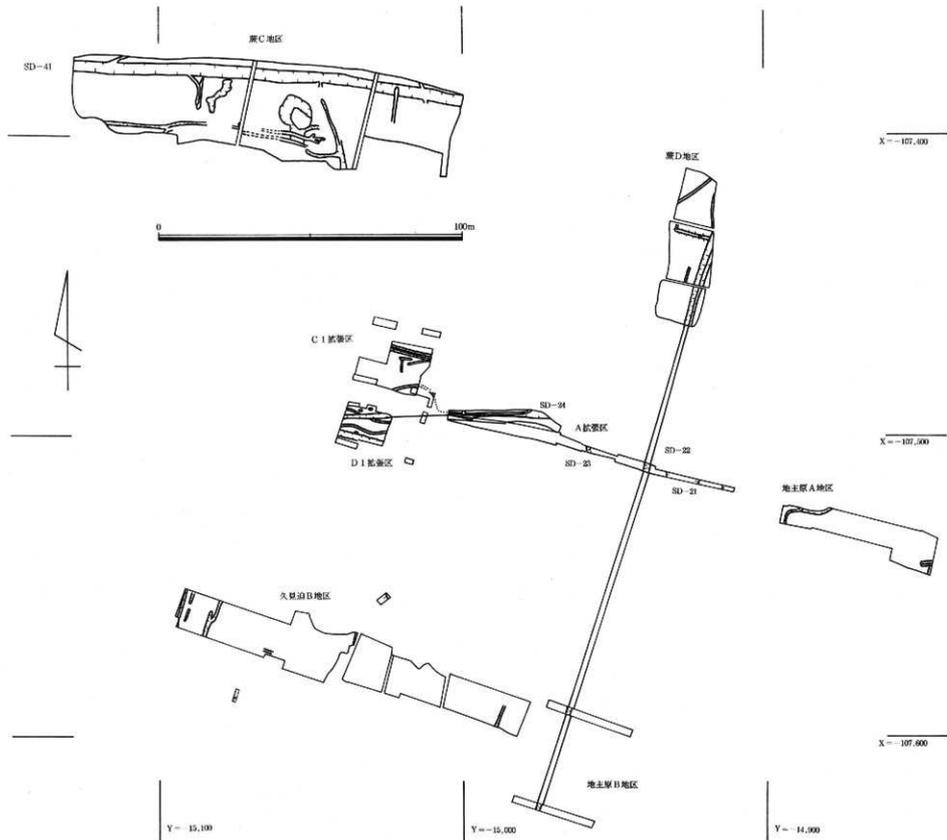


第74図 地主原A地区出土 金属製品 実測図



第75図 地主原A地区出土 石器 実測図





第76図 調査区検出 溝状遺構分布図

IV. まとめ

広範囲でしかも部分的な調査であったが、土地利用の変遷を追うことができる。

縄文時代

中期、短期間であるが、微高地に居住した痕跡がある。晩期にも居住し、台地南縁の最低段丘で農耕を始めた可能性はある。

弥生時代

中期末～後期初頭の一時期、微高地の居住していた可能性はある。

古墳時代(表2・3)

蕨A地区のような木棺墓や木蓋墳墓、板石積石室墓は存在せず、地下式横穴墓と土墳墓が発見された。

蕨C地区の地下式横穴墓の主軸は、ほとんどが北寄りであり、蕨A・B地区と同じ集団の墳墓といえる。地下式横穴墓の祖型と推定される横口式土墳墓の系譜をひく墳墓としてST-3004と3007があげられる。年代等を示す遺物は出土していないが、玄室が上から掘り込まれていることは確実にいわれる地下式横穴墓との過渡的なタイプではないかと推測する。堅坑の閉塞形態は2つのタイプがあり、堅坑上部閉塞タイプのほうが多く分布し、羨門閉塞タイプは分散している。両者は直径10mほどの占有地を持ち、優劣は認められない。しかし、副葬品に限ってみれば、羨門閉塞タイプには、副葬品は全く無い。この傾向は蕨A・B地区でも同様、副葬品に乏しい。玄室は全て平入り両袖で、楕円形を呈するものが多い。副葬品の内容と玄室の規模に相関関係は無く、身分差は、副葬品の質・量によって表されている。また、中世まで墳丘が遺存していたと思われるST-3009、3013、3014、3020のように築造後に墳丘を有する墳墓と、ST-3012のように墳丘を持ちえなかった墳墓がある。こういった事例は、広畑遺跡⁽¹⁾(平畑地下式横穴群)の調査でもみられた。副葬品からみると、主として5世紀末～6世紀前半に築造されたと思われるが、主軸方位と鉄線の変遷との関係など、残された課題も多い。

久見迫B地区の地下式横穴墓群は状況が異なる。当地区の墳墓は、全て、羨門をアカホヤ塊で閉塞する平入り両袖楕円形タイプで、玄室の規模も格差が少ない。堅坑のほとんどはD字型を呈し、その直縁部側に羨道が設けられる。主軸方位にも統一性は無く、近接する墳墓もみられ、直径数m程度(目印程度)の墳丘を持っていたこ

とが推測される。反面、ほとんどの墳墓に副葬品があり、鉄線の多さが目立つ。ST-4011から轡が出土しているが、久見迫A地区でも轡や雲珠、鏡が出土しており、当地域の特徴を示している。構築時期は6世紀代に納まり、地下式横穴墓を築造した最後の集団の墳墓といえる。

久見迫B地区では、轡を副葬した土墳墓が2基検出されたが、土墳墓としては異常に深い。かつて久見迫A地区では、馬の歯と轡が出土した土坑が確認されており、B地区の遺構も、馬の頭を埋葬した祭祀土坑ではないかと推測される。

中期以降(第76図)

微高地となっている試掘溝C1拡張区周辺や久見迫B地区東半部に人々が居住し始め、台地が開墾されていく。初期は、旧地形に沿って畦畔や水路が築かれるため、彎曲した水路が多い。中頃になると、計画的な直線の田畝が築かれ、条里的景観へと変わる。以後、区画方位は変動しつつも、方形区画を保つ。また、当時の主要道でもある石敷道路も整備される。

近世後半には、ほぼ東西-南北の田畝に改築され、現在に至る地点もある。

土土遺物は豊富であるが、溝状遺構に伴うものが少なく、年代を確定し難い。遺物からみれば、弥生時代前期・後期および7～8世紀代に断絶がある。当該期は、おそらく、川内川の氾濫が緩やかだったために、集落も氾濫原へ下りて生業していたと推測される。平安時代以降氾濫が激しくなり、集落は高位段丘にまで築かれる。低位段丘は必然的に閉塞せざるをえなくなり、細々と耕作される。上江-池島地区は水が無い所であるために墓域となっていたので、耕化するには水を引くことが先決であったと思われるが、大規模な土木工事をしていない中世中頃までは陸稲を含む畑作が中心だったのではないかと推測される。

19世紀、洪水が山城の崖を削ったという記録も残っており、氾濫原での耕作は長続きしなかったことが伺える。

古代～中世にかけての官道は、原田-上江-池島地区の現在の県道が踏襲していると推測されるが⁽²⁾、蕨C地区の石敷道路は中世の官道であると思われ、調査の意義は大きい。

註

- (1) えびの市教育委員会『広畑遺跡』1991
- (2) 石川太郎(久見遺跡)、『九州歴史資料館館報文化財調査報告(1)』福岡県教育委員会1972
- (3) 『えびの市史』えびの市 1994

表2 藤C地区 地下式横穴墓一覧表

墓号	閉塞	閉塞材	玄室プラン	玄室規模(cm)		副室規模		副室高さ	副室扉	副室扉数	備考	主軸	旧番号	
				長さ	幅	長さ	幅							
3001	墓坑上部	板石?	未掘	--	--	--	--	--	--	--		N15°W	3019	
3002	墓坑上部	板石?	未掘	--	--	--	--	--	--	--		N4°W	3020	
3003	羨門	板石?	未掘	--	--	--	--	--	--	--		N10°W	3021	
3004	羨門	板石?	未掘	--	--	--	--	--	--	--	横口式系?	S75°W	3022	
3005	墓坑上部?	板石?	未掘	--	--	--	--	--	--	--		--	3023	
3006	墓坑上部	板石?	未掘	--	--	--	--	--	--	--		N2°E	3024	
3007	羨門	板石	平入り 両裾 台形	126	165	(70)	--	--	--	--	横口式系	N10°W	3025	
3008	羨門	板石?	未掘	--	--	--	--	--	--	--		N	3016	
3009	墓坑上部	板石	平入り 両裾 楕円形	152	196	(110)	--	--	--	柄		N20°W	3003	
3010	羨門	板石	平入り 両裾 隅丸台形	130	194	(80)	--	--	--	--		N5°E	3002	
3011	墓坑上部	板石?	未掘	--	--	--	--	--	--	--		--	3036	
3012	墓坑上部	板石	未掘	--	--	--	--	--	--	--		--	3005	
3013	墓坑上部	板石?	平入り 両裾 楕円形	120	200	80	--	--	2	1	不明 (2)	床面の一部に赤色顔料	N8°E	3012
3014	墓坑上部	板石?	平入り 両裾 楕円形	146	216	(60)	2	--	10	2	亀1		N4°E	3004
3015	墓坑上部	板石	平入り 両裾 楕円形	150	226	102	--	--	--	--			N2°E	3007
3016	墓坑上部	板石・円盤	平入り 両裾 楕円形	120	190	(90)	1	--	1	6	1		N10°W	3006
3017	羨門	板石	平入り 両裾 楕円形	97	168	(70)	--	--	--	--		逆扉あり	N10°E	3008
3018	墓坑上部	板石?	平入り 両裾 楕円形	114	158	72	1	--	5	--	(1)	主軸が掘折	N5°E	3009
3019	墓坑上部	板石	平入り 両裾 楕円形	120	157	(90)	--	--	--	--			N3°E	3011
3020	墓坑上部	板石	平入り 両裾 楕円形	120	190	(100)	--	--	--	1			N20°W	3010
3021	墓坑上部	板石?	未掘	--	--	--	--	--	--	--			3015	
3022	墓坑上部	板石?	平入り 両裾 楕円形	92	138	72	--	--	--	--			N8°W	3013

()は推定

表3 久見泊B地区 地下式横穴墓一覧表

墓号	閉塞	閉塞材	玄室プラン	玄室規模(cm)		副室規模		副室高さ	副室扉	副室扉数	備考	主軸	旧番号	
				長さ	幅	長さ	幅							
4001	羨門	アカホヤ塊	平入り 両裾 楕円形	140	(280)	(60)	1	18	--	--	風雨木根に侵蝕	N36°E	3035	
4002	羨門	アカホヤ塊	平入り 両裾 楕円形	135	216	(50)	--	6	1	--	(2-3)		N5°W	3034
4003	羨門	アカホヤ塊	平入り 両裾 楕円形	140	190	(70)	--	3	2	--	(2)	主軸が掘折	N2°W	3033
4004	羨門	アカホヤ塊	平入り 両裾 略方形	150	170	40	1	18	1	1	(3)		N17°W	3032
4005	羨門	アカホヤ塊	平入り 両裾 楕円形	140	206	(80)	1	10	2	--	(2-3)	主軸が掘折	N8°E	3030
4006	羨門	アカホヤ塊	平入り 両裾 楕円形	146	(240)	(90)	--	17	2	--	(2-3)		N31°E	3026
4007	羨門	アカホヤ塊	未掘	--	--	--	--	--	--	--			南南西	3031
4008	羨門	アカホヤ塊	平入り 両裾 楕円形	158	230	(76)	--	5	2	--	(2-3)		S35°E	3029
4009	羨門	アカホヤ塊	平入り 両裾 楕円形	130	249	(100)	--	9	2	--			S87°W	3028
4010	羨門?	アカホヤ塊?	平入り 両裾 楕円形	--	220	(100)	--	1	--	--		大部分が崩失	N-E	3027
4011	羨門	アカホヤ塊・円盤	平入り 両裾 楕円形	140	204	(80)	10	1	1	--	(2-3)		S29°E	3001
4012	羨門	アカホヤ塊	平入り 両裾 楕円形	120	208	(60)	--	--	--	--			N53°E	3017
4013	羨門	アカホヤ塊	平入り 両裾 楕円形	134	(200)	(50)	--	--	--	--			N68°E	3018

表4 藤C地区 地下式横穴墓出土遺物一覧表

番号	出土遺物	種類	現存長mm		番号	出土遺物	種類	現存長mm		番号	出土遺物	種類	現存長mm	
			1	2				3	4				5	6
1	ST-3013	鉄鏃	17.0	3.2	12	ST-3014	鉄鏃	14.4	1.0	20C	ST-3016	鉄鏃	7.6	7.6
2	"	"	12.2	3.0	13	"	"	18.0	0.6	20D	"	鏃	25.2	12.6
3	"	小刀	10.2	--	14	"	"	17.0	3.8	21A	ST-3018	鉄鏃	9.4	1.4
4	"	刀子	11.4	7.2	15	"	"	16.6	1.0	21B	"	"	7.6	--
5	ST-3014	鉄鏃	12.3	8.8	16	"	鏃	9.8	3.2	21C	"	"	10.0	1.6
6	"	"	10.6	1.5	17	ST-3016	鉄鏃	11.4	6.8	22	"	"	11.8	5.2
7	"	"	8.0	1.7	18A	"	"	7.0	--	23	"	"	11.3	1.6
8	"	"	4.9	--	18B	"	"	10.2	2.7	24	"	小剣	25.4	18.8
9	"	"	15.7	2.7	19	"	"	10.6	4.4	25	ST-3009	小刀柄	5.2	--
10	"	"	14.4	--	20A	"	"	4.7	(4.4)	26	"	"	3.2	--
11	"	"	8.5	3.6	20B	"	"	4.2	2.6	27	ST-3020	刀子	7.2	(4.0)

表5 久見泊日地区 地下式横穴墓出土遺物一覽表

番号	出土遺構	種類	現存長	刃部長	番号	出土遺構	種類	現存長	刃部長	番号	出土遺構	種類	現存長	刃部長
第45区	ST-4001	鉄鏃	5.6	3.6	41	ST-4004	鉄鏃	8.8	1.5	83A	ST-4006	鉄鏃	13.6	1.4
2A	"	"	8.4	1.4	42	"	"	9.0	-	83B	"	"	13.9	1.3
2B	"	"	8.0	2.0	43	"	"	9.2	-	84	"	"	17.2	1.0
3	"	"	4.2	-	44	"	"	9.0	-	85	"	"	15.1	1.1
4	"	刀子	17.9	(9.7)	45A	"	"	7.9	-	86	"	"	16.6	1.7
5	"	鉄鏃	4.8	2.8	45B	"	"	16.6	2.4	87	"	"	16.6	1.6
6	"	"	8.9	3.3	46A	"	"	15.0	-	88	"	"	12.1	2.0
7A	"	"	5.2	2.5	46B	"	"	4.6	4.0	89	"	"	11.4	1.8
7B	"	"	5.3	2.4	47	"	"	17.3	2.1	90	"	"	13.4	0.5
7C	"	"	4.6	2.6	48	"	"	3.1	-	91	"	"	11.5	1.2
8A	"	"	6.7	3.2	49	"	"	11.5	-	92	"	"	13.0	-
8B	"	"	5.2	2.2	50	"	"	19.9	2.4	93	"	刀子	9.9	(5.8)
8C	"	"	5.8	2.7	51	"	"	17.8	2.2	94	"	"	8.9	(3.2)
8D	"	"	5.9	3.0	52	"	"	7.9	-	95	"	鉄鏃	11.2	-
8E	"	"	8.7	3.0	53	"	"	6.7	-	96	ST-4009	"	7.6	7.6
9A	"	"	7.0	2.0	54	"	刀子	14.9	9.0	97	"	"	8.9	4.6
9B	"	"	7.6	3.5	55	"	小刀	23.4	17.4	98A	"	"	8.6	1.7
9C	"	"	13.7	4.0	56	"	髷	10.5	-	98B	"	"	3.2	2.0
9D	"	"	5.0	-	57	ST-4008	刀子	8.8	4.9	99A	"	"	4.2	1.0
9E	"	"	14.0	3.8	58	"	鉄鏃	14.9	1.6	99B	"	"	14.0	1.2
9F	"	"	5.4	-	59	"	"	13.9	0.4	100	"	"	3.1	1.9
10	"	"	6.2	-	60	"	"	16.1	1.7	101	"	"	3.9	1.6
11	"	"	4.7	-	61	"	"	14.8	-	102	"	"	4.4	1.0
12	"	"	4.2	-	62	"	"	11.8	(4.0)	103	"	"	4.3	-
13	"	"	4.2	-	63	ST-4010	"	14.1	12.0	104	"	刀子	6.0	-
14	"	"	5.0	-	第46区	ST-4005	"	8.9	1.9	105	"	"	6.3	-
15	"	"	5.9	-	65	"	"	15.8	1.0	106	"	刀子	8.0	(5.3)
16	"	"	3.1	-	66	"	"	12.7	1.1	107	"	"	6.3	(1.7)
17	"	"	8.7	3.2	67	"	"	10.9	2.6	108	"	鉄鏃	8.9	-
18	"	"	2.9	-	68	"	"	10.4	2.4	109	"	"	8.1	-
19	"	"	2.2	-	69	"	"	8.0	3.0	110	"	"	8.1	-
20	"	"	2.9	-	70A	"	"	10.9	2.2	111	"	"	13.7	-
21	ST-4002	"	13.9	4.9	70B	"	"	8.4	3.2	第47区	ST-4011	"	11.0	2.4
22	"	"	15.0	1.7	71A	"	"	13.2	-	112	"	"	11.0	(2.4)
23	"	"	8.0	2.0	71B	"	"	2.9	-	114	"	"	4.4	2.7
24	"	"	6.6	-	72	"	"	12.2	-	115	"	"	3.8	-
25	"	"	7.8	3.8	73	"	"	11.2	-	116	"	"	12.8	2.9
26	"	刀子	7.9	(3.0)	74	"	"	10.5	-	117	"	"	5.9	5.9
27	"	鉄鏃	5.8	-	75	"	"	9.2	-	118	"	"	4.4	-
28	ST-4003	"	14.0	6.1	76	"	刀子	15.4	9.4	119	"	"	4.0	0.1
29	"	"	14.7	1.2	77	"	鉄鏃	5.0	-	120	"	"	7.0	-
30	"	"	19.3	1.8	78	"	"	3.8	-	121	"	"	12.2	-
31	"	刀子	6.2	(2.0)	79	"	"	7.9	-	122A	"	"	12.5	3.2
32	"	"	8.5	(4.0)	80	"	刀子	7.0	(1.8)	122B	"	"	11.2	3.4
第48区	ST-4004	鉄鏃	13.3	2.6	81A	ST-4006	鉄鏃	7.2	-	123	"	"	4.4	4.4
34	"	鉄鏃	14.6	4.2	81B	"	"	7.9	-	124	"	小刀	16.6	(11.0)
35	"	"	12.6	2.7	82A	"	"	14.3	1.2	125	"	髷	27.2	-
36	"	"	12.6	(2.8)	82B	"	"	13.5	1.9	第50区	ST-4005	劍	70.4	55.2
37	"	"	5.5	2.0	82C	"	"	17.6	2.5	127	ST-4001	大刀	88.0	78.0
38	"	"	16.2	3.2	82D	"	"	10.6	-	128	ST-4004	"	48.2	(38.4)
39	"	"	7.0	3.2	82E	"	"	16.3	3.4	129	ST-3014	"	46.8	39.8
40	"	"	6.5	2.1	82F	"	"	16.4	1.4	130	ST-3016	"	44.0	(44.0)
										131	ST-3014	"	70.0	57.8

表6 ST-4011西側土器群 観察表

番号	器種	法量 (口径)	調 整		色 調		焼成	胎 土
			内 面	外 面	内 面	外 面		
第55團	壺	—	ナデ	ナデ	黄褐色	淡黄灰	ややあまい	1~2ミリの砂粒 多量
2	壺	—	ナデ	ナデ	淡黄褐色	淡黄褐色	ややあまい	1~2ミリの砂粒 多量
3	壺	18.2	ナデ	ナデ	淡灰褐色	淡灰褐色	あまい	1ミリ前後の砂粒 多量
4	壺	—	ナデ	クテハケ	淡黄褐色	暗茶灰	良	1ミリ前後の砂粒 少量、黒炭母微量
5	壺	—	ナデ	ナデ	淡黄褐色	淡黄褐色	良好	1ミリ前後の砂粒 微量
6	壺	34.6	摩滅	摩滅	明褐色-淡黄褐色	明褐色-淡黄褐色	あまい	1~3ミリの砂粒・クナリ砂 少量
7	壺?	—	摩滅	摩滅	淡褐色	純黄	ややあまい	1ミリ前後の砂粒 多量
8	壺	15~20	摩滅	摩滅	淡黄褐色	淡黄褐色	ややあまい	1ミリ前後の砂粒 多量
9	壺	—	摩滅	摩滅	淡灰褐色	明褐色	あまい	1~2ミリの砂粒 多量
10	壺	—	同心円タタキ	クテハケ	淡灰	淡茶灰~淡灰	ややあまい	1~2ミリの砂粒 微量

表7 SK-104出土遺物 観察表

番号	品種	法 量 (cm)			調 整		色 調		焼成	胎 土	備 考
		口径	底径	高さ	内面	外面	底形	内面			
第54團	皿	11.5	6.5	3.0	ナデ	ナデ	糸切り	淡黄白	淡黄白	良	精良
2	皿	12.4	7.0	3.0	ナデ	ナデ	糸切り	淡黄白	淡黄白	良好	精良
3	小皿	5.3	3.8	1.2	ナデ	ナデ	糸切り	淡黄白	淡黄白	良	精良
4	小皿	6.2	4.6	1.6~1.9	ナデ	ナデ	糸切り	淡黄灰	暗灰褐色	良	精良 灯明煎瓶用
5	小皿	—	4.2	—	ナデ	ナデ	糸切り	淡黄褐色	淡黄褐色	良	精良

表8 調査区出土 須臾器 観察表

番号	出土地	遺構	器種	法量 (口径)	調 整		色 調		焼成	胎 土
					内面	外面	内面	外面		
第61團	試掘溝F付近	灰床	坏身	—	ナデ	ココナデ	地灰褐色	暗灰褐色	堅緻	精良
2	久見沼B	SZ-11	坏蓋	14.0	ココナデ	ココナデ	淡灰	淡灰	良好	精良
3	D1灰層団	SK109壊	壺	—	ナデ	ココナデ	灰~暗灰	淡灰	堅緻	1ミリ前後の砂粒 微量
4	蔵C	2 SZ-04	壺	22.6	ココナデ・ナデ	ココナデ	淡灰	淡青灰	堅緻	1~2ミリの砂粒 微量
5	久見沼B-4	東端SD	壺	22.2	同心円タタキ	ココナデ	淡灰~灰	淡灰	堅緻	精良
6	蔵C-2	SZ-04	壺	—	ナデ	ナデ	淡灰	淡青灰	堅緻	1~2ミリの砂粒 微量

表9 調査区出土 中世国産陶器 観察表

番号	出土地	遺構	器種	法 量 (cm)			色 調		焼成	胎 土	備 考
				口径	底径	高さ	内面	外面			
第61團	蔵C	SD-41	壺	21.0	—	—	暗緑	暗緑	堅緻	1~2ミリの砂粒 少量	常滑地、口縁部内面と体部外面に淡緑灰色自然釉
2	久見沼B-1	東端SD	摺鉢	24.8	—	—	暗緑	暗緑	堅緻	1ミリ前後の砂粒 少量	磨削的、使用による著しい摩滅
3	C1灰層区	排土	摺鉢	—	12.0	—	暗緑	暗緑	良	1~3ミリの砂粒 少量	磨削的、使用による著しい摩滅
4	久見沼B-1	東端SD	摺鉢	22.8	—	—	暗緑	暗緑	堅緻	1~2ミリの砂粒 少量	磨削的、使用による著しい摩滅、口唇部に自然釉
5	久見沼B	PP-550	摺鉢	30.8	—	—	暗緑	暗緑	良	—	磨削的
6	試掘溝G1	SD	摺鉢	—	13.0	—	暗緑	暗緑	堅緻	1~2ミリの砂粒 微量	磨削的、使用による著しい摩滅
7	久見沼B	SZ-13	壺	—	12~13	—	暗緑	暗緑	堅緻	1~2ミリの砂粒 少量	磨削的、使用による著しい摩滅
8	久見沼B	SZ-11	摺鉢	—	12.0	—	暗緑	暗緑	良	—	磨削的、使用による著しい摩滅
9	久見沼B	SZ-11	壺	—	—	—	暗緑	暗緑	良	—	1~5ミリの砂粒 多量

表10 久見泊B地区出土 土師器 観察表

番号	出土遺構	器種	法 量 (cm)			調 整			色 調		焼 成	胎 土
			口 径	底 径	高 さ	内 面	外 面	底 部	内 面	外 面		
1	ST-4013 石室埋土	甕	17.2	-	-	ナデ	ナデ	-	淡茶灰	黄褐色	ややあまい	1~2ミリの砂粒 少量
2	ST-4010 飯坑埋土	壺	-	-	-	ナデ	ナデ	-	暗灰	淡黄褐色	良	1~2ミリの石灰粒 少量
3	ST-4008 石室埋土	長頸甕	-	-	-	ナデ	ヘラミガキ	-	淡茶灰	褐色	良好	精良
4	PP-1153	手拭巾	-	-	-	指痕ナデ	指痕押圧	-	黒褐	黄褐色	ややあまい	1~2ミリの石灰粒 少量
5	ST-4007 石室埋土	甕	-	6.2	-	ナデ	ナデ	-	淡黄褐色	淡黄褐色	ややあまい	1~2ミリの砂粒 少量 1ミリ前後の赤褐色粒 少量
6	ST-4009 石室埋土	高坏	-	-	-	ナデ	ナデ 指痕押圧	-	明褐色	灰褐色	良	1ミリ前後の砂粒 少量
7	PP-822	小皿	6.4	4.2	1.4	ナデ	ナデ	糸切り	淡茶褐	暗灰~黒灰	ややあまい	精良
8	PP-496	小皿	6.4	3.3	2.0	ナデ	ナデ	糸切り	淡黄褐色 淡黄褐色	淡黄褐色 淡黄白	良好	精良
9	PP-484	杯	8.6	-	-	ナデ	ナデ	-	淡茶褐	淡茶褐	良	精良
10	PP-1080	皿	-	4.0	-	ナデ	ナデ	糸切り	黄褐色	黄褐色	あまい	精良
11	PP-822	小杯	-	4.4	-	ナデ	ナデ	糸切り	淡黄褐色	淡黄褐色	ややあまい	精良
12	PP-885	杯	-	4.8	-	ナデ	ナデ	-	淡黄褐色	淡黄褐色	ややあまい	精良
13	PP-783	杯	-	6.0	-	ナデ	ナデ	糸切り	淡黄褐色	淡黄褐色	良	精良
14	PP-819	杯	-	6.6	-	ナデ	ナデ	摩滅	淡黄褐色	淡黄褐色	ややあまい	精良
15	SD-65	杯	-	6.4	-	ナデ	ナデ	糸切り	淡灰褐色	淡灰褐色	あまい	精良
16	PP-787	杯	-	6.0	-	ナデ	ナデ	糸切り	淡黄褐色	淡黄褐色	良	精良
17	PP-235	杯	-	7.3	-	ナデ	ナデ	糸切り	淡黄白	淡黄白	良	精良
18	PP-486	杯	-	6.6	-	ナデ	ナデ	糸切り	淡黄白	淡黄白	良	精良
19	PP 200	小杯	10.8	6.2	3.0	ナデ	ナデ	糸切り	暗灰褐色 淡黄褐色	淡灰褐色 淡黄褐色	あまい	精良
20	ST-4002 石室埋土	杯	-	7.7	-	ナデ	ナデ	糸切り	淡茶灰	淡茶褐	ややあまい	精良
21	PP-1146	杯	-	8.2	-	ナデ	ナデ	摩滅	淡黄褐色	淡灰褐色	ややあまい	精良
22	PP-738	杯	-	7.0	-	ナデ	ナデ	糸切り	淡黄褐色	明褐色	良	精良
23	PP-752	杯	-	8.0	-	ナデ	ナデ	糸切り	淡褐色	淡褐色	良	精良
24	試掘溝F1 PP	杯	10.8	-	-	ナデ	ナデ	-	淡灰褐色 淡黄褐色	淡灰褐色 淡黄褐色	良	精良
25	PP 319	杯	13.0	-	-	ナデ	ナデ	-	淡黄白	淡黄白	ややあまい	精良
26	ST-4003 石室埋土	皿	13.4	-	-	ナデ	ナデ	-	明褐色	淡茶褐	ややあまい	精良
27	PP-486	皿	15.4	-	-	ナデ	ナデ	-	淡黒灰 (二次加熱)	淡茶褐	良	精良
28	PP 706	壺	-	11.6	-	ナデ	ナデ	ヘラ切り	淡黄褐色 淡灰褐色	淡黄褐色 淡灰褐色	良好	精良
29	SZ-13	杯	-	6.0	-	ナデ	ナデ	糸切り	灰~灰褐色	暗灰 淡黄褐色	ややあまい	精良
30	SZ-13	杯	-	6.2	-	ナデ	ナデ	摩滅	淡黄白 淡灰白	淡黄白 淡灰白	ややあまい	精良
31	PP-281	土鍋?	22.2	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	-	淡灰白	淡黄褐色 淡黒褐色	良好	精良
32	SZ-10	皿	(10.6)	7.0	(3.1)	ナデ	ナデ	糸切り	淡茶灰	淡茶褐	ややあまい	精良
33	ST-4002 飯坑埋土	甕	27.6	-	-	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	-	淡黄褐色	淡灰褐色	良	1ミリ未満の砂粒・黒フロン 少量
34	SZ 11	甕	14.1	-	-	摩滅	摩滅	-	淡黄褐色	淡黄褐色	良	1ミリ前後の砂粒 クワリ粒粒 多い
35	SZ-11	甕	9.0	-	-	ナデ	摩滅	-	暗灰	淡褐色	ややあまい	1ミリ前後の砂粒 少量
36	SZ-11	杯	11.2	6.4	3.1	ナデ	ナデ	糸切り	淡茶褐	淡茶褐	良好	精良
37	SZ 11	杯	-	8.8	-	ナデ	ナデ	ヘラ切り	淡黄白 淡黄白	淡黄白 淡黄白	良	精良
38	SZ-11	杯	-	8.0	-	ナデ	ナデ	糸切り	淡黄白 淡黄白	淡黄白 淡黄白	良	精良
39	SZ-11	甕	-	-	-	ナデ	ナデ	-	淡黒灰	淡黄褐色	良	1ミリ前後の砂粒多い 1ミリ未満の赤褐色粒少量
40	SZ-11	杯	-	6.8	-	ナデ	ナデ	摩滅	淡黄白	淡黄白	良	精良
41	SZ-11	杯	6.8	-	-	ナデ	ナデ	ヘラ切り	淡灰白	淡灰白	良	1ミリ前後の砂粒 少量
42	SZ-11	小皿	6.8	3.1	1.8	ナデ	ナデ	糸切り	淡灰	淡灰白	良	精良
43	SZ-11	小杯	6.6	-	-	ナデ	ナデ	-	淡黄灰	淡黄灰	ややあまい	精良
44	SZ-11	小杯	8.4	-	-	ナデ	ナデ	-	淡黄褐色 淡黄褐色	淡黄褐色	良	1ミリ前後の砂粒 少量
45	SZ-11	小杯	-	5.0	-	ナデ	ナデ	糸切り	淡褐色	淡褐色	良	精良

表11 調査区出土 輸入陶磁器 観察表

番号	出土地・遺構	種類・器種	法 量 (cm)			色 調			調整・技法・文様	年 代
			口徑	底徑	高さ	釉色	露胎	胎土		
新5区 1	Cl広張区 田磨	青磁 碗	-	-	-	オリブ灰	-	灰白		14世紀末～15世紀
2	廣C SD-41	青磁 碗	17.0	-	-	オリブ灰	-	灰白	剣先蓮弁	15中～16前
3	廣C ST-3007	青磁 椀花型皿	-	-	-	オリブ灰	-	灰白-灰灰白		15中～16前
4	廣C-3 南東端SD	白磁 碗	-	-	-	乳白	-	灰白		12～14
5	廣C-2 田磨	青磁 碗	-	7.0	-	灰灰白 見込み 外底	見込み 外底	灰白	二次的被火	15～16
6	廣C-3 SD	青磁 碗	-	-	-	オリブ灰	-	灰白		14後～15前
7	廣C-3 SD	青磁 碗	-	7.8	-	オリブ灰	-	灰白		14後～15前
8	試掘溝D2 SD-24	青磁 碗	-	6.6	-	オリブ灰	外底	灰白		
9	久見道B SZ-11	青磁 瓶	-	-	-	オリブ灰	-	灰白	毫路文陽刻	14後～15前
10	久見道B PP-280	白磁 皿	11.0	-	-	乳白	-	白		16後～17前
11	久見道B ST-4004	青磁 椀花型皿	12.2	-	-	灰灰白	-	灰白-灰灰		15中～16前
12	久見道B SZ-04	青磁 椀花型皿	14.4	6.0	-	オリブ灰	-	灰白		15中～16前
13	久見道B 排上	青磁 椀花型皿	14.0	6.8	3.8	オリブ灰	外底	灰白		15後～16前
14	久見道B SZ-13	青磁 小皿	8.4	6.0	2.8	オリブ灰	-	灰白		14後～15前
15	久見道B 田磨	青磁 碗	13.4	-	-	オリブ灰	-	灰白		14後～15前
16	久見道B PP-810	青磁 碗	14.4	-	-	灰灰白	-	灰白	蓮弁	15後～16前
17	久見道B PP-941	青磁 碗	-	-	-	灰灰白	-	灰白	剣先蓮弁	15中～16前
18	久見道B PP 318	青磁 碗	14.2	5.7	5.7	灰灰	高台 外底	灰白	底に髹髹痕	14後～15前
19	地主原B-1 排上	青磁 碗	16.8	-	-	灰灰白	-	灰白		14後～15前
20	久見道B PP-300	青磁 碗	17.0	-	-	新オリブ灰	-	灰白	書文帯 印花文	15後～16前
21	久見道B PP-934	青磁 椀花型皿	-	5.2	-	灰灰	見込み 外底	灰白	印花文	15～16前
22	久見道B PP-939	青磁 碗	-	4.6	-	灰灰	見込み 外底	灰白	印花文	15後～16前
23	久見道B SD-64	青磁 碗	-	5.6	-	新オリブ灰	外底	灰白	印花文	14末～15
24	久見道B 排上	青磁 碗	-	6.4	-	オリブ灰	見込み 外底	灰白	ヘラ掛印花文	14後～15前
25	久見道B PP-1014	青磁 碗	-	5.8	-	灰灰	外底	灰白	印花文	14末～15
26	久見道B SD-64	青磁 皿	-	5.6	-	オリブ灰	見込み 外底	灰白		14末～15
27	久見道B PP-300	青磁 碗	-	7.2	-	オリブ灰	-	灰白		14後～15前
28	久見道B SZ 13	青磁 碗	-	6.6	-	灰灰オリブ	見込み 外底	灰白		15～16前
29	久見道B SZ-11	青磁 碗	-	8.6	-	オリブ灰	外底	灰灰白 土被覆	印花文	14後～15前
30	久見道B PP-190	青磁 皿	-	9.0	-	オリブ灰	-	灰白	外底に胎土目筋み	14後～15前
31	久見道B SZ-08	青磁 皿	-	8.8	-	オリブ灰	見込み	灰白	陽刻	14後～15前
新5区 32	久見道B I～II層	染付 小皿	-	2.8	-	灰青白	墨付き	乳白	茶筒底	15末～16中
33	久見道B PP 281	染付 皿	-	14.2	-	乳白	墨付き	乳白	玉取獅子	16前～中
34	久見道B PP 912	染付 碗	11.6	-	-	灰青白	-	乳白		15末～16中
35	久見道B SZ-08	染付 皿	12.4	7.4	2.6	灰青白	-	灰白	玉取獅子	15末～16中
36	久見道B 4東端SD	染付 皿	-	5.6	-	灰青白	墨付き	乳白		16前～中
37	久見道B SZ-13	染付 碗	-	4.6	-	乳白	墨付き 外底	乳白		16末～17前
38	久見道B 排上	染付 碗	-	5.6	-	灰灰白	墨付き 外底	乳白		16後～17前
39	久見道B PP-803	染付 皿	11.4	-	-	乳白	-	灰白	茶筒底	16後
40	久見道B SZ-11	染付 皿	-	7.2	-	乳白	-	灰白		16前～中
41	久見道B PP 814	染付 皿	14.4	5.5	-	灰灰白	-	灰白		16末～17初
42	久見道B PP-821	染付 碗	12.0	-	-	白	-	灰白		16末～17初
43	久見道B PP-110	染付 碗	12.0	-	-	乳白	-	白		
44	久見道B PP-947	染付 碗	12.8	-	-	乳白-灰灰白	-	乳白		16末～17前
45	試掘溝J2 SD	染付 皿	-	5.8	-	灰灰	墨付き 外底	灰灰白	胎付高台、焼成あまい	16後～17前
46	試掘溝I 2 SD-37	染付 皿	-	4.6	-	灰灰	墨付き	灰灰白		16後～17前
47	地主原A PP-326	青磁 碗	14.8	-	-	オリブ灰	-	灰白	剣先蓮弁	13～14
48	地主原A PP-014	青磁 碗	15.6	-	-	灰灰	-	灰白	剣先蓮弁	15末～16

表12 調査区出土 国産陶磁器 観察表(1)

番号	出土地・遺構	種類・器種	法 量 (mm)			色 調				調整・技法・文様・その他	年 代
			口径	底径	高さ	胎 色	露 胎	胎 土			
第45区	試掘溝A SD-24	唐津 群毛目唐津	5.2	8.2	—	暗褐色	灰灰	灰褐色	二次被熱	17世紀	
2	試掘溝A SD-24	摩摩? 碗	8.9	—	—	外:茶 内:乳白	—	灰乳白	—	19	
3	蔵C ST-3008	南九州 埴	—	4.4	—	茶褐色	盤付古	灰灰	蛇ノ目輪割ぎ	18後~幕末	
4	試掘溝C拡張区	薩摩 皿	7.3	—	—	灰灰白	—	灰灰白	—	17	
5	試掘溝C拡張区	薩摩 埴	—	4.4	—	暗緑灰	盤付古~内底 盤付古~内底 内底黄褐色	暗赤褐色	蛇ノ目輪割ぎ	17	
6	蔵C ST-3008	薩摩 埴	—	18.0	—	—	—	茶褐色・灰	—	17	
7	久見道B SZ-11	唐津 鉄絵埴	12.0	4.6	6.2	灰灰白	—	灰黄褐色	—	1580~1610	
8	久見道B SZ-11	肥前カ 埴	—	5.2	—	暗緑白	盤付古	灰灰白	—	17前	
9	久見道B SZ-11	薩摩 粥鉢	—	7.8	—	暗茶褐色	外底 茶褐色	灰~灰灰	—	17後~18	
10	久見道B SZ-11	肥前系 染付大皿	—	9.8	—	灰灰白	盤付古 乳白	乳白	—	17	
11	久見道B SZ-11	初期薩摩 磁鉢	—	10.7	—	茶褐色	—	灰灰~暗灰	—	17前	
12	久見道B SZ-13	南九州 埴	—	4.6	—	黄褐色	—	灰灰	—	18後半~19	
13	久見道B SZ-13	薩摩 壺	—	8.2	—	暗茶褐色	茶灰~ 暗赤褐色	明灰薄土 暗赤褐色	—	17後~18	
14	久見道B SZ-13	薩摩 鉢	—	—	—	暗灰	—	茶褐色	内外面に自然釉	17?	
15	久見道B II層	薩摩 粥鉢	—	—	—	暗赤	口縁内面 暗赤灰	暗灰褐色	—	18~19	
16	試掘溝J2 SD	肥前系 茶碗皿	—	4.4	—	乳白	外底・内面	灰乳白	—	18後~19前	
17	試掘溝J2 SD 37	薩摩? 碗	12.4	—	—	乳白	—	白	—	19	
18	試掘溝J2	肥前系 染付碗	11.4	—	—	乳白	—	灰乳白	—	18後~19初	
19	試掘溝J2 II層	南九州 埴	—	4.7	—	灰灰	盤付古	灰灰白	蛇ノ目輪割ぎ	18後~19	
20	試掘溝J2 SD-37	薩摩 染付碗	11.4	—	—	乳白	—	乳白	端反り型	—	
21	試掘溝J2 SD 37	肥前系 染付碗	10.6	—	—	乳白	—	乳白	端反り型	1820~幕末	
22	試掘溝J2 SD-37	南九州 埴	12.6	—	—	—	—	明茶褐色	蛇ノ目輪割ぎ	—	
23	試掘溝F1	薩摩 埴	33.2	—	—	—	暗緑褐色	赤褐色	—	17後~18	
24	試掘溝G1 SD35	薩摩 粥鉢	14.6	—	—	暗緑褐色	—	暗灰・赤褐色	—	18~幕末	
25	試掘溝J2 II層	薩摩 注口付小皿	9.0	—	—	暗褐色	—	赤褐色	—	18~幕末	
26	久見道B PP-240	肥前系染付小皿	6.3	—	—	乳白	口縁~ 内面	白	—	17後~18前	
27	久見道B PP-240	薩摩 鉢	45.5	26.8	8.2	外:暗緑黄 内:暗赤褐色	口縁上面 暗赤褐色	暗赤褐色	口縁上面に重ね焼き痕	17後~19前	
第46区	久見道B PP-321	唐津 埴	11.0	3.8	3.6	暗緑灰	—	灰灰薄~ 暗灰	—	16末~1610	
29	久見道B PP-253	唐津 埴	—	5.3	—	茶褐色	外底 茶褐色	灰	—	16末~1630	
30	久見道B I層	唐津 鉄絵埴	—	4.4	—	—	—	灰灰~灰	—	1600~1630	
31	試掘溝I1 II層	唐津 皿	13.3	5.2	3.9	灰灰白	縁~ 脚端	茶褐色	砂目積み	1600~1630	
32	久見道B PP-1012	唐津 皿	—	6.8	—	外底白 内底白	外底下 内底	茶褐色	内面に砂目	1600~1630	
33	久見道B ST 4001	唐津 埴	—	6.3	—	乳白	暗褐色	灰灰~ 暗褐色	唐津蓋形	16末~17初	
34	久見道B SD-64	肥前系 皿	12.9	6.3	3.6	灰灰	盤付古	灰灰白	端野古田雲	1650~60	
35	試掘溝I2 II層	肥前 皿	—	6.1	—	乳白	—	灰灰白	端野古田雲	1650~60年代	
36	試掘溝I1 PP	肥前 染付唐津	—	6.8	—	暗灰白	盤付古	灰灰白	端野古田雲	1650~60	
37	久見道B ST-4004	肥前 染付碗	10.5	—	—	灰灰白	—	白	二次被熱	1630~50	
38	久見道B PP-354	肥前 染付碗	13.5	—	—	乳白	—	白	—	1650~70	
39	久見道B PP-826	肥前系 染付碗	9.8	—	—	乳白	—	白	—	1650~70	
40	久見道B PP-803	肥前 染付碗	11.1	—	—	灰灰白	—	乳白	—	1650~60	
41	久見道B PP-881	唐津 皿	—	4.3	—	灰灰白	外周下 内底	茶褐色~ 赤褐色	—	16末~17初	
42	久見道B II層	肥前 内野山原皿	13.4	4.0	3.7	外:暗緑黄 内:茶褐色	—	—	胎土目積み	17末	
43	試掘溝F1 PP	肥前系? 碗	—	6.3	—	灰灰白	—	灰灰白	—	17後	
44	久見道B PP-109	薩摩系? 碗	14.2	5.2	5.9	暗赤褐色	盤付古	灰黄白	—	17	
45	試掘溝I1 PP	肥前系 染付碗	—	4.5	—	灰灰白	—	白	—	17中	
46	試掘溝I1 II層	肥前 青磁碗	13.0	—	—	暗緑白	—	乳白	—	17	
47	久見道B PP-797	肥前 内野山原皿	12.4	—	—	外:暗緑黄 内底	—	灰灰白	—	17末~18初	
48	久見道B PP-251	肥前 染付小皿	6.2	2.8	4.2	白	—	白	—	17後	

表13 調査区出土 国産陶磁器 観察表(2)

番号	出土地・遺構	種類・部種	法			色			調整・技法・文様・その他	年代
			口径	底径	高さ	胎色	露胎	胎土		
49	久見追B PP-241	肥前 染付小坏	7.9	3.6	5.4	乳白	墨付き	白		17後
50	久見追B PP-251	肥前系 染付小坏	7.0	3.0	4.2	緑灰白	墨付き	乳白	漆絵合痕	17後～18前
51	久見追B PP-235	肥前系 染付碗	—	5.2	—	乳白	墨付き	乳白		17後～18前
52	久見追B SZ-09	西津系 磁鉢	29.0	—	—	緑茶系	灰黄～灰黄緑	灰黄緑		17前
53	久見追B SK-108	南九州 磁器	—	5.3	—	赤・茶系 灰黄～灰黄緑	赤白	灰黄白		17
54	久見追B PP-321	肥前系 青磁 香炉	7.7	—	—	緑黄～灰黄	—	灰黄白		17
55	久見追B PP-213	南九州 碗	9.7	4.2	4.7	緑茶系～赤系	墨付き 赤白	墨付き 赤白	蛇ノ目輪割ぎ	17後～18初
56	久見追B PP-867	南九州 碗	10.8	4.4	5.8	緑茶系	墨付き 赤白	灰黄白	蛇ノ目輪割ぎ	17後～18
57	久見追B ST-4004	肥前系 染付碗	11.4	4.2	4.8	—	—	—		18中～末
58	久見追B PP-903	肥前系 染付碗	11.3	—	—	緑灰白	—	乳白		18
59	久見追B PP-887	肥前 染付碗	—	4.2	—	灰青白	墨付き	白		18
60	試掘溝J2 SD	肥前 染付碗	—	5.4	—	緑灰白	墨灰白	墨灰白	コンニャク印判	18前～中
61	試掘溝J2 H層	肥前 染付碗	—	4.2	—	赤白	—	白	コンニャク印判	18前～中
62	試掘溝J2 SD	肥前系 染付碗	10.2	—	—	乳白	—	赤灰白		18
63	久見追B PP-1146	肥前系 染付碗	9.8	—	—	緑灰	高台	緑灰白	割目文	18
64	試掘溝J2	唐津 碗	8.9	3.9	5.0	緑灰白	—	緑黄緑		18前
第67区 65	地主原A SD-01	薩摩 摺鉢	29.5	—	—	緑黄～赤系	緑茶系	緑灰～緑灰赤	重ね焼き痕	17
66	地主原A PP-243	南九州 鉢	19.6	6.2	6.0	灰黄	墨付き 赤白	灰黄白	蛇ノ目輪割ぎ、漆絵合痕	17
67	地主原A SZ-01	南九州 碗	11.6	4.6	5.9	赤・緑灰白 赤・灰黄緑	—	緑灰	蛇ノ目輪割ぎ	17後～18
68	地主原A PP-121	薩摩 鉄付碗	11.0	—	—	緑黄～赤系	—	緑灰赤		17
69	地主原A PP-243	薩摩系 碗	12.2	4.5	5.7	赤系緑	灰黄	灰黄白		17中～18前
70	地主原A PP-270	肥前系 染付碗	—	4.4	—	赤・緑灰白 赤・灰黄緑	—	白		18前～中
71	地主原A SD-01	肥前系 染付皿	12.6	5.8	3.4	赤灰白	墨付き	乳白	蛇ノ目輪割ぎ	18中～末
72	地主原A PP-047	薩摩? 碗	11.2	4.5	5.7	乳白	墨付き	白		1820～明治
73	地主原A SZ-04	肥前系 白磁碗	—	3.8	—	乳白	墨付き	白	多朱沈線	18中～末
74	地主原A PP-129	南九州 碗	11.5	4.5	6.1	緑黄～赤系 赤系	緑灰白～赤系 緑黄	赤系	蛇ノ目輪割ぎ	18
75	地主原A PP-210	南九州 磁器	—	4.8	—	赤系	赤白 赤系	灰黄赤	蛇ノ目輪割ぎ	18～幕末
76	地主原A PP-220	肥前 碗	5.4	—	—	赤・白 赤・灰黄緑	口縁部 墨付き	白	六角	17後～18前
77	地主原A SZ-04	南九州 筒台	—	5.4	—	赤・赤系 赤・灰黄緑	—	赤系	糸切り底	18～幕末
78	地主原A SD-01	薩摩 壺	—	17.0	—	—	緑茶系	緑灰	灰被	18～19後
79	地主原A SD-01	南九州 片口	13.0	5.2	6.3	緑茶系	高台～赤系	緑黄	蛇ノ目輪割ぎ	18～幕末
80	地主原A SA-01	肥前系 白磁蓋	8.9	—	—	乳白	—	白		18中～末
81	地主原A SA-01	薩摩 蓋	4.1	—	—	赤系	—	灰被		
82	地主原A SA-01	肥前 染付小坏	7.1	3.0	4.2	乳白	墨付き	白		明治後半～大正
83	地主原A SA-01	南九州 碗	10.4	—	—	赤	口縁内 赤系	赤系	淡黄白色胎の文様	18～19
84	地主原A SA-01	薩摩? 染付碗	10.3	4.0	5.5	乳白	墨付き	白	蛇ノ目輪割ぎ	明治

表14 試掘溝K1・久見追B地区出土 磁石 一覧

番号	出土地・遺構	法	量(cm)	材質	備考	番号	出土地・遺構	法	量(cm)	材質	備考
第68区 1	久見追B PP-812		9.0×2.5×2.1	粘板岩	条痕あり	9	久見追B PP-1040		10.2×6.8×1.8	硬泥岩	2面使用
2	久見追B SZ-06		9.0×5.2×1.7	泥岩	3面使用	10	久見追B PP-384		5.3×4.2×0.7	砂岩	3面使用
3	久見追B ST-4003		9.4×7.3×1.6	粘板岩	3面使用	11	久見追B ST-4006		14.7×8.0×3.0	砂岩	4面使用
4	久見追B PP-193		7.6×4.9×3.3	硬砂岩	3面使用	12	久見追B SZ-08		21.6×8.7×5.6	砂岩	4面使用
5	久見追B SZ-08		4.6×4.8×0.7	泥岩	磨り切り痕	13	久見追B PP-253		5.7×3.4×1.1	砂岩	4面使用
6	久見追B SZ-06		5.2×2.2×0.6	硬砂岩	3面使用	14	久見追B PP-822		8.8×3.0×0.8	粘板岩	条痕あり
7	久見追B PP-826		9.2×4.1×1.6	砂岩	1面使用	15	試掘溝K1 SD		8.9×4.4×2.7	粘板岩	条痕あり
8	久見追B PP-614		5.5×3.6×1.1	泥岩	3面使用	16	久見追B SZ-08		9.2×4.6×2.3	硬砂岩	4面使用

表15 久見迫B地区出土 軽石加工品・石臼一覧

番号	出土遺構	法量(cm)	使用痕、備考
第69回 1	PP-798	11.6×8.0×6.3	片面
2	SZ-11	16.1×13.0×10.2	片面、側面
3	排土	5.3×3.0×2.4	門柱
4	排土	8.5×4.3×4.2	両面
5	排土	5.2×4.9×2.9	片面、多面体
6	PP-812	6.4×4.8×4.6	3面、3角柱
7	SZ-11	9.7×8.0×5.0	片面、擦痕
8	PP-275	直径21.0 高さ11.9	

表16 久見迫B地区出土 金属製品一覧

番号	出土遺構	種類	法量(cm)	備考
第72回 1	SZ-09	鉤	残存長19.6	
2	PP-914	キセル	4.6	同一個体か
3	SZ-15	キセル	6.0	
4	PP-1146	キセル	5.8	
5	PP-1146	キセル	7.0	
6	PP-1155	鎌	12.0	

表17 地主原A地区 出土遺物一覧

番号	出土遺構	種類	法量(cm)	色調、備考
第73回 1	PP-239	焙烙	口径19.2	黄褐色
2	PP-328	皿?	底径4.7	黄褐色、糸切り
3	PP-220	坏	底径7.0	黄褐色、糸切り
第74回 1	PP-208	厚鎌	刃幅15.2	
2	SA-01	鎌	残存長8.2	
3	SA-01	用途不明	残存長9.6	
4	PP-298	キセル	4.0	
5	PP-096	キセル	4.0	
第75回 1	SA-01	すり石	12.2×11.4×8.4	
2	SA-01	砥石	9.4×5.8×1.6	砂岩
3	PP-069	砥石	11.2×4.0×3.5	粘板岩

あとがき

調査後7年も経過した遺跡の報告ですが、やっと公開することができました。筆者が本市へ着任した初めての現場で、“地下式横穴墓”という墓も初めて調査した遺跡です。今思うと、調査方法・地点に不足部分が目立ち、全体像が把握できないことを後悔しています。

中世～近世の柱穴群の個々についての検討ができず、集落の変遷までは追うことができませんでした。ただ、陶磁器類に関しては入橋先生に鑑定して頂き、他の遺跡の調査・研究にも貴重な成果が得られたことと思っております。

最後に、厳冬の中、調査に参加して頂いた作業員の方々に對しまして厚く御礼申し上げます。





試掘溝 A 拡張区 SD-24 (西から)



SD-24 断面 (東から)



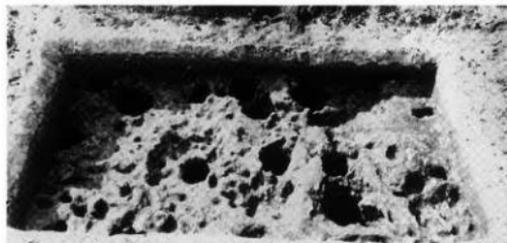
試掘溝 C 2 全景 (東から)



試掘溝 D 1 プラント・オパール分析資料採取



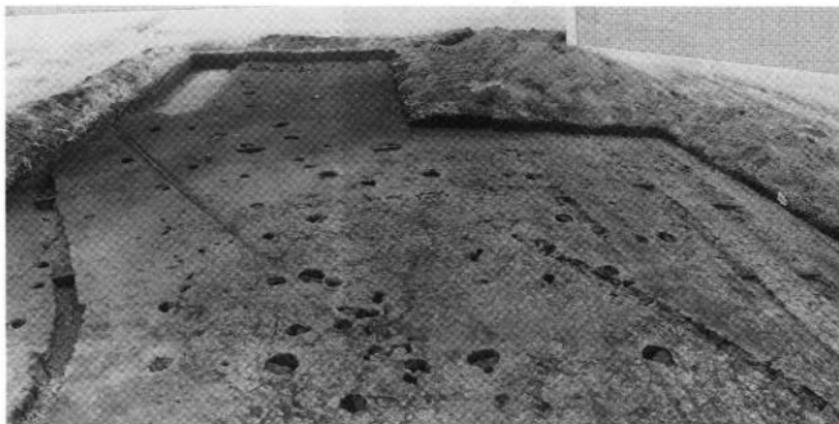
同上 プラント・オパール分析・土壌分析資料採取



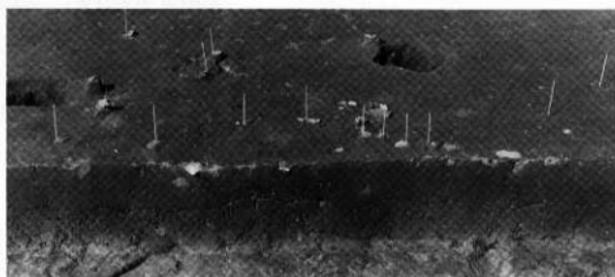
試掘溝 F 1 全景 (東から)



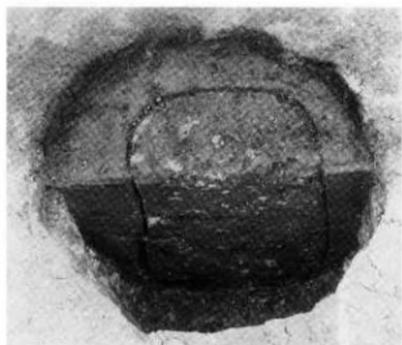
溝 C-2 区 プラント・オパール分析資料採取



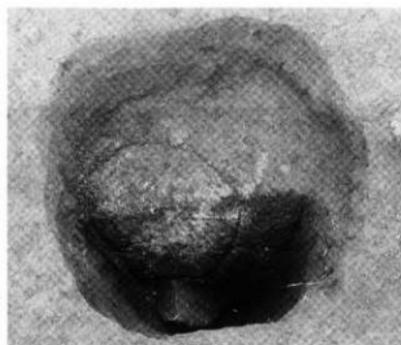
試掘溝C1拡張区 全景（東から）



西南部 遺物出土状態（南から）



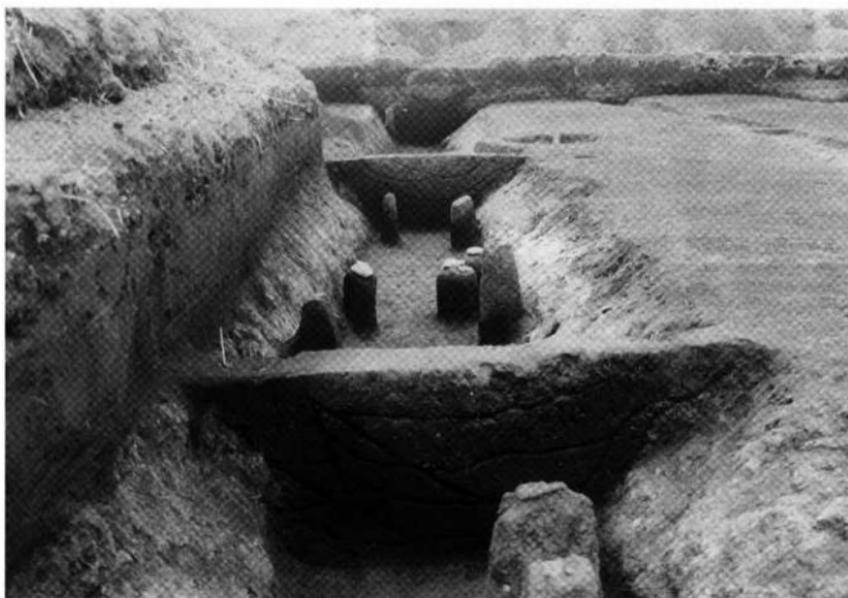
SB-01 PP-1 断面



SB-01 PP-3 断面



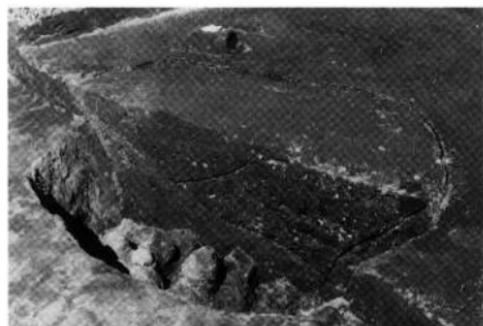
試掘溝D1拡張区 全景（東から）



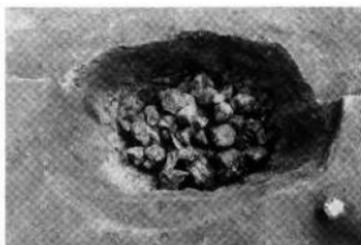
SD-34 全景（東から）



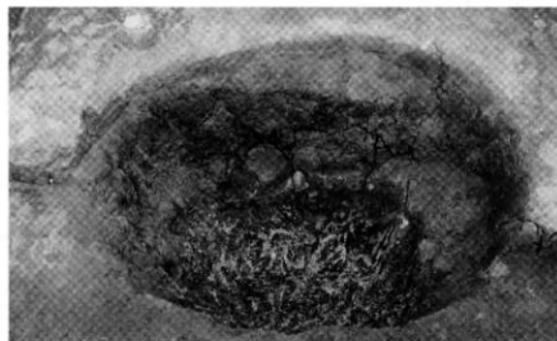
SD-34 西壁断面層序 (東から)



SK-103 断面層序 (南から)



同左 アカホヤ魂 出土状態 (北から)



同上 完掘状態 (北から)



康C-1~2区 全景 (西から)



康C-2区 東壁 SD-41 断面層序 (西から)



藤C-2区南版部 遺構分布状態 (西から)



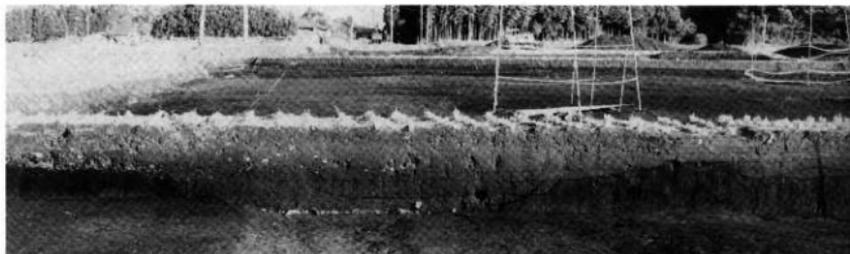
藤C-2区 ST-3020と周辺溝状遺構 (南から)



蕨C-0区 遺構分布状態（西から）



蕨C-3区 遺構検出状態（東から）



蕨C-2区 東壁北部 断面層序 (西から)



蕨C-2区 東壁中央部 断面層序 (西から)



蕨C-2区 東壁南端部 断面層序 (南西から)



ST-3007全景 (西から)



同上 全景 (南から)



同 断面層序南西部 (南西から)



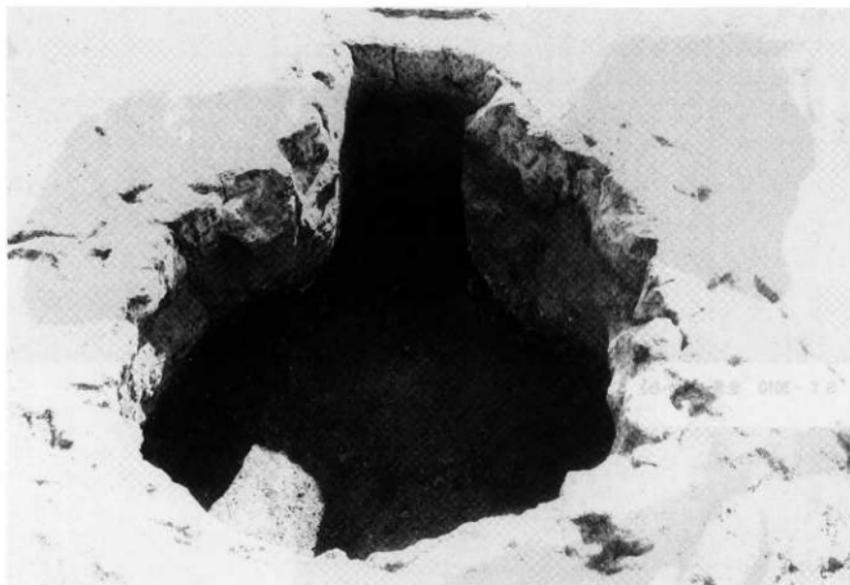
ST-3008 竪坑とSD-41 (南西から)



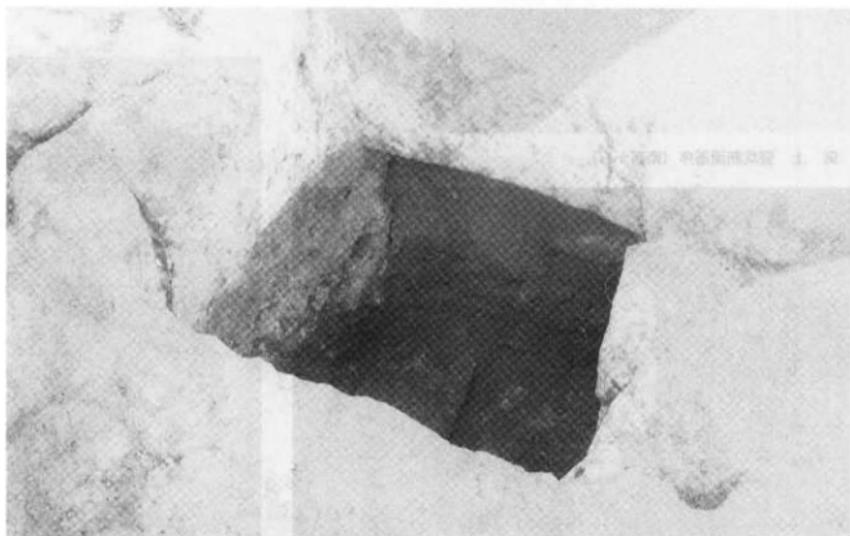
同 上
竪坑断面
(北西から)



同 上
羨門部人骨出土状態
(南から)



ST-3009 全景 (北から)



ST-3013 竪坑完掘状態 (南東から)



ST-3010 全景 (西から)



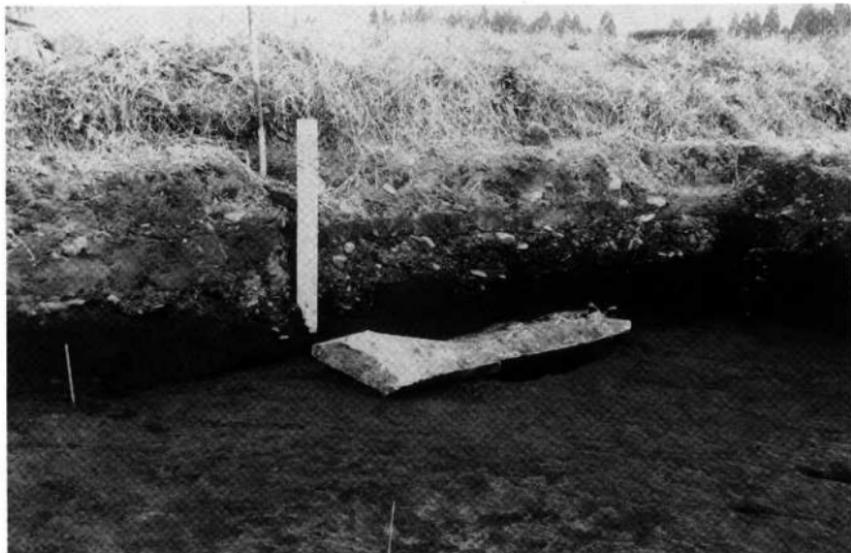
同 上 竪坑断面層序 (南西から)



同 上 羨門閉鎖状態 (南から)



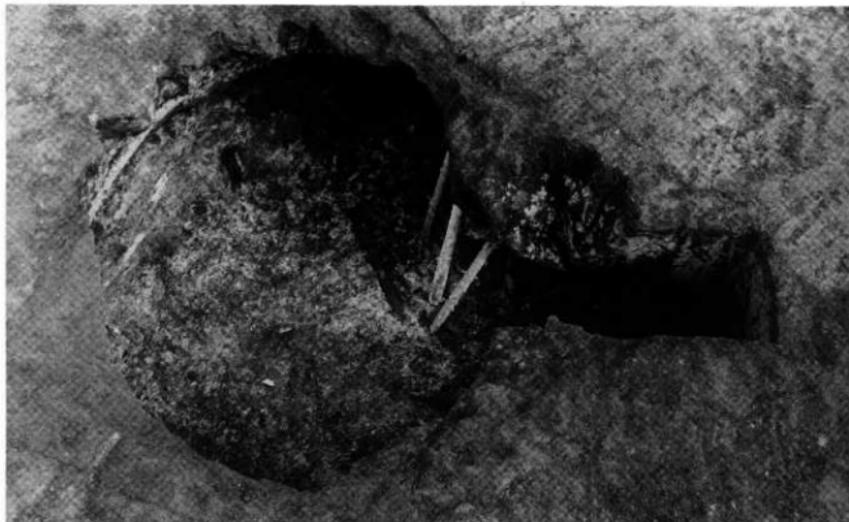
同 上 全景 (南から)



ST-3012 竪坑上部と排土の断面層序 (南西から)



同 上 排土の分布状態 (南東から)



ST-3014 全景 (西から)



ST-3015 竪坑上部閉塞状態 (南から)



同 左 完掘状態 (南から)



同 上 竪坑西側の排土 断面層序 (西から)



S T-3016 全景 (南から)



同左 壑坑上部閉塞状態
(東から)



同上 遺物出土状態 (南から)



同左 羨門閉塞状態 (南から)



同左 羨門閉塞状態 (東から)



ST-3017 全景 (北西から)



同上 壁坑断面層序 (南西から)

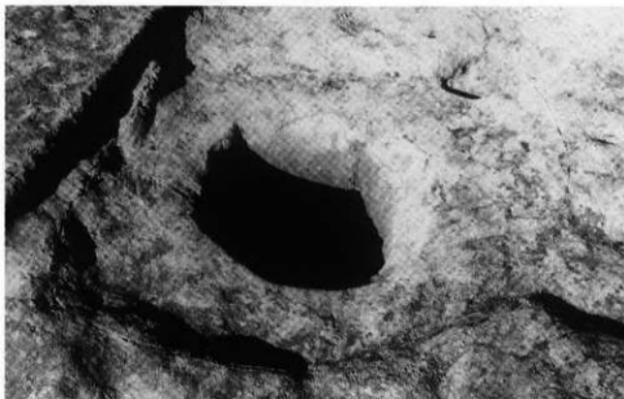
ST-3018
 竪坑上部
 閉塞状態
 (南から)

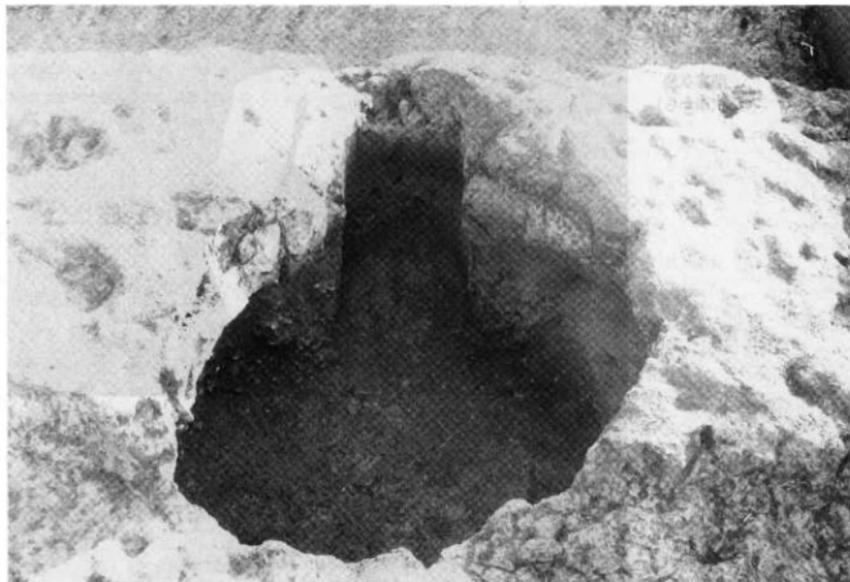


同上
 全景
 (南から)



ST-3022
 全景
 (南から)

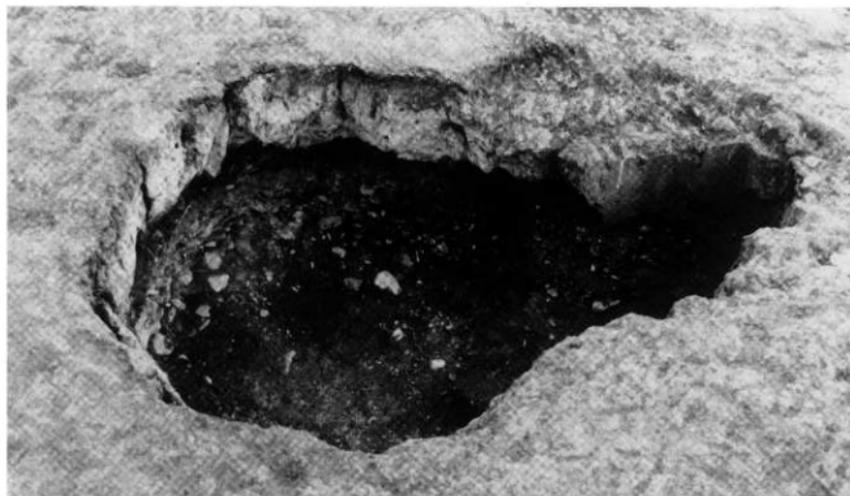




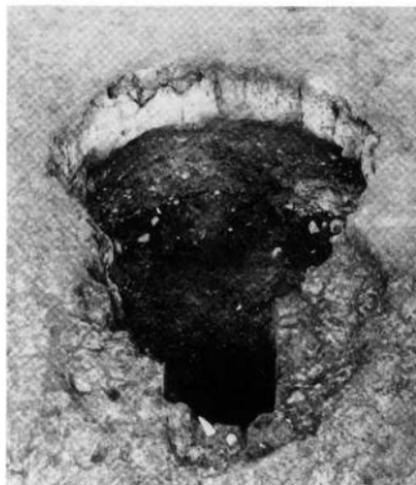
ST-3019 全景（北から）



ST-3019と中世の溝状遺構（西から）



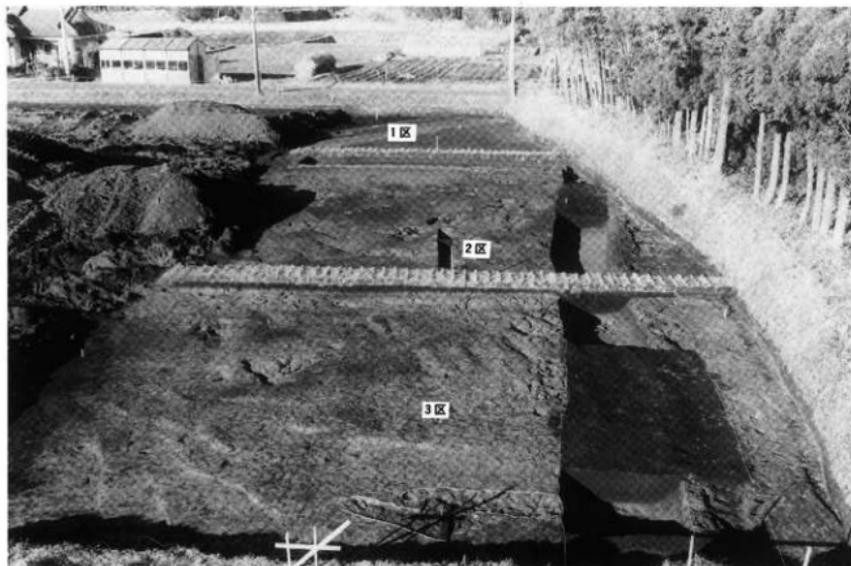
ST-3020 全景 (西から)



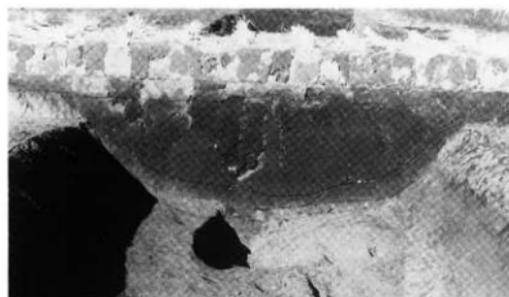
同上 全景 (南東から)



同上 竪坑上部閉塞状態と陥没坑



藪D地区 遺構分布状態 (南から)



3区
SD-61
北壁層序
(南から)



同上
層序
(南東から)



久見泊B-1区 遺構分布状態（西から）



同上（東から）